

白川町 まち・ひと・しごと創生総合戦略

第3期
(2025 ～ 2028)

目 次

第1章 総論

第1節 位置づけ	1
第2節 計画期間	1

第2章 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価

第1節 評価について	2
第2節 各施策におけるKPIの評価結果	2
第3節 人口の現状分析	16
第4節 町民の声	20
第5節 将来像(あるべき姿)	33
第6節 問題点と課題	33

第3章 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略

第1節 重点方針	36
第2節 具体的な施策	37
第3節 戦略の推進体制	47

第4章 資料編

・ 第3期白川町まち・ひと・しごと創生総合重点方針と第6次白川町総合計画実施計画との関連	48
・ まちの暮らしやすさ充足度アンケート 用紙	51
・ 白川町総合計画審議会条例及び委員名簿	53

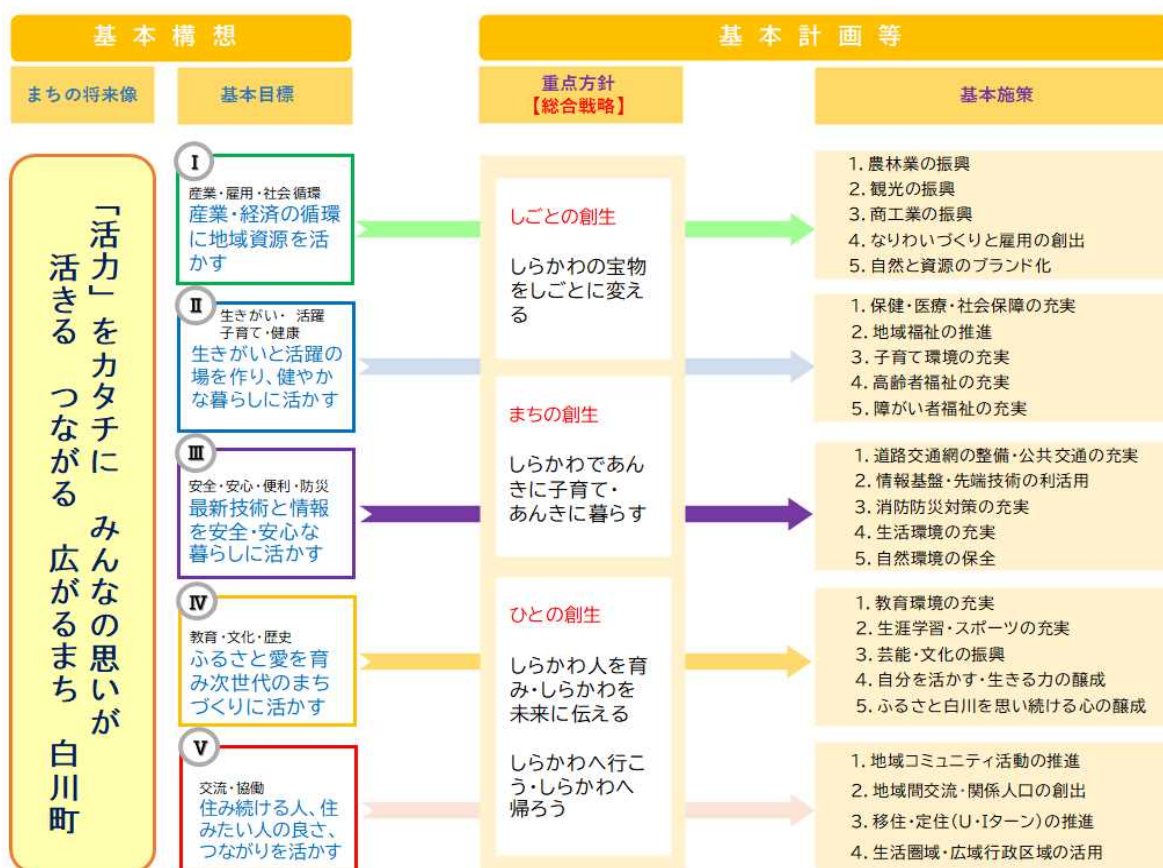
第1章 総論

第1節 位置づけ

本戦略は、「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づく市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略として位置づけし、「白川町第6次総合計画」を上位計画として整合を図ります。

また本戦略では、**総合計画の基本施策のうち”まち・ひと・しごと創生”に重点を置いた方針を策定するものとし、総合計画期間中であることから、第3期総合戦略においても重点方針は継続していきます。**

第6次総合計画・第3期総合戦略 体系図



第2節 計画期間

「白川町第3期総合戦略」の期間は、第6次総合計画期間に合わせ、2025(令和7)年度から2028(令和10)年度までの4年間とします。

なお、期間中において、社会情勢の変化や国の方針の変更、本町の状況の変化等により、修正の必要が生じた場合は随時見直しを行います。

計画期間 : 2025(令和7)年度 ~ 2028(令和10)年度

第2章 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価

第1節 評価について

1 評価の方法

第3期総合戦略の策定にあたり、第2期総合戦略で定めた成果指標や重要業績評価指標(KPI)の達成状況を、以下の判定基準により評価しました。

《達成状況の判定基準》

判定区分	判定基準
○	目標値達成 又は 達成見込み有り
△	目標値未達成であるが基準値は維持できている
×	目標未達成で基準値も下回っている
—	計測不能 又は 未計測

第2節 各施策におけるKPIの評価結果

基本目標① しらかわの宝ものをしごとに変える

しごと の創生

施策①:地域資源(緑)を活用した産業振興

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	現状値	達成状況
1 農地の集積率	15%	20%	19.8%	○
2 GAP・JAS認定団体数	3団体	8団体	3団体	△
3 木材搬出量	12,500m³	15,000m³	16,746m³	○
4 町内総生産(一人当たり)	2,398千円	2,830千円	2,514千円	△

①基準値は2020年度実績 目標値は4年間の合計数値

②基準値は2020年度実績 目標値は4年間の合計数値

③基準値は2020年度実績 目標値は最終年度数値(出所)白川市場の町内産木材取扱量

④基準値は2020年度実績 目標値は最終年度数値(出所)市町村民経済計算(2020年度)

1 農地の集積

地域農業の未来図となる「人・農地プラン」を作成し、地域が中心となって農地を守る機運を高めるとともに、集落営農組織、トマト生産者、有機農業者や新規就農者などの担い手育成により守るべき農地の集積が推進されたか？

主な事業 >>>> 農業委員会活動事業、農業組織育成事業、新規就農者育成事業

《評価》

・KPIの農地の集積率は、達成の見込み。

・農業委員会の取り組みによって、地域の農地状況を把握し、新規就農者や集落営農組織への集約が進んだ。

・有機農業推進の結果、徐々に新規就農者の増加による集積が進んだ。

《今後に向けて》

- ・継続して推進する。
- ・集落営農の経営基盤強化のため、農地の集約を推進する必要がある。
- ・産業面と国土保全(景観や獣害被害防止)の両面での目的により、今後も農業委員会や農業組織育成、新規就農者育成を推進する。
- ・スマート農業、効率化、機械化により、産業振興や地方創生に向けた数値目標とする。

2 ふるさとの恵みを使った特産品づくり

白川産の農産物や旬の食材の付加価値を高めるため、新たな商品の開発に積極的に取り組む農業者などを支援できたか？

主な事業 >>>> 農業組織育成事業

《評価》

- ・GAP/JASについては、未達成の見込みだが、推進に向けた取り組みを確認した。
- ・農業再生協議会の取り組みにより、大豆生産のほかに玉ねぎなど収益性の高い作物の栽培を推進した。
- ・茶業振興会による新商品開発支援事業を実施し、6事業者が新商品開発を行った。
- ・大学連携によるフレーバーティーの開発など、産官学連携にも取り組んだ。

《今後に向けて》

- ・KPIの設定は特産品数とすることを推奨。
- ・特産品は取り組むことに意義があるため今後も継続して推進する。(取り組み数=KPI)

3 白川茶の生産基盤を守る

「白川茶産地構造改革計画」を策定し、茶生産組合の体制整備や合理化に取り組むなかで、茶園整備など生産の効率化や観光業などと連携した茶園や茶摘みの風景の新たな活用方法など生産意欲の維持、農地の荒廃化防止に、十分取組めたか？

主な事業 >>>> 茶業振興対策事業

《評価》

- ・KPIについては、達成の見込み。ただし、茶園に限っては、管理不全や耕作放棄地の発生が顕著である。
- ・地域資源活用センターの立ち上げに向けて準備を行った。

《今後に向けて》

- ・地域資源活用センターにより、特産の白川茶の生産基盤である茶畑は、収益性の有無によって維持していくものと、収益性の高い作物への転換を図る。
- ・観光資源としての活用も視野に入れ、環境面の機能としての保全を図る必要がある。

4 農業関係施設の体制強化

道の駅周辺施設の管理運営体制を見直し、将来に向けて持続できる体制を整備するため、関係施設が連携して管理運営する体制を構築し、経営の安定化を図ることができたか？

主な事業 >>>> 農業施設維持管理事業

《評価》

- ・KPIの設定は無し
- ・担い手不足への対策は、ワークドットと連携したものの、思うような効果が得られなかった。

《今後に向けて》

- ・農業関係組織の体制強化は、ピアチェーレの再編を契機に野菜村チャオやてまひまなど関連組織の抜本改革に着手する。
- ・単体での対策ではなく、関連組織一体となって取り組む。

5 森林整備の促進

森林境界の明確化、林道の整備、森林組合が中心となった森林の集約化により、森林整備の加速化を図り、木材生産の向上に繋がったか？ また、新規林業者や事業者の育成を支援し、担い手の確保ができたか？

主な事業 >>>> 森林整備促進事業、林業担い手育成事業、林道整備事業

《評価》

- ・KPIの木材搬出量は、達成見込み。
- ・森林境界の明確化による森林経営計画の樹立によって、森林施業の効率的な実行が可能となり、仕事量が増加した。その結果、木材搬出量が増加した。
- ・仕事量の増加により、林業従事者の安定的な仕事が確保できた。それに伴い、林業担い手のニーズも高まった。

《今後に向けて》

- ・引き続き、森林境界の明確化と森林施業の集約化を図る。
- ・施業量の増加に伴い、林業従事者の不足が生じていることから、林業担い手の確保と育成に努める。

6 森林資源の活用

人工林の間伐や広葉樹林の整備により伐採した木材は、できる限りすべてを搬出し、住宅用材だけでなく、木工品への利用や、薪やチップなど再生エネルギーである木質バイオマス材への加工など、利用拡大を図るための調査研究が進んだか？

主な事業 >>>> 間伐材全量搬出事業、森林資源活用事業

《評価》

- ・KPIである木材搬出量は、達成見込み。
- ・森林資源で住宅用木材に利用できない部材を、東濃ひのき製品流通協同組合のレナウッドが主体となり活用しており、町として支援を行った。焼却から販売への事業転換
- ・シイタケ原木による特用林産の振興は、生産組合への支援を行い、新規参入者の確保につながった。

《今後に向けて》

- ・岐阜県森林研究センターと連携し、特用林産(トリュフ)の開発に取り組む。
- ・間伐材の全量搬出を引き続き行うため支援する。
- ・広葉樹の原木生産について、町内産の原木を活用する。

施策②:挑戦できる場の提供(起業支援)

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	現状値	達成状況
1 新規就農者数	19人	27人	27人	○
2 新規起業家数(担い手の数)	—	2人	5人	○
3 サテライトオフィス誘致数	—	2社	1社	△

①基準値は2020年度実績 目標値は4年間の合計人数

②目標値は4年間の合計人数

③目標値は4年間の合計数

1 新規就農の推進

就農相談体制を強化し、就農相談から事業として成功するまでの継続的な技術指導、販売ルートの確立のほか農地や住宅のあっせんまでトータルでサポートすることで農業に取り組むために移住するという流れを創ることができたか？

主な事業 >>>> 新規就農者育成事業

《評価》

- ・KPI新規就農者については、達成見込み。
- ・達成の原因としては、施設野菜の夏秋トマトと、有機農業については研修先の受け入れ態勢が整っており、新規就農者の確保につながった。
- ・トマト生産組合やゆうきハートネットへ、活動支援を行い安定的な組織の育成に努めた。

《今後に向けて》

- ・引き続き推進する。
- ・しごとや住居対策など関連団体と連携して新規就農者の受け入れ態勢を整える。
- ・圃場のすみ分けについて、課題がある。

2 新規起業家数(担い手の数)

地域の女性が自らのアイデアを元にしたビジネスを始められるよう、知識の習得と実践の場を提供することができたか？
住民等の出資団体による地域課題の解決のためのチャレンジを支援し、行政に頼らず自律的に地域が動くシステムを創ることができたか？

主な事業 >>>> 女性のチャレンジ支援事業、スモールビジネスチャレンジ交付金

《評価》

- ・担い手の数値目標は、達成した。
- ・令和3年度からの支援事業、交付金の実績は無く、他事業(創業支援やまちおこし推進補助金)で支援を行った。
- ・女性に特化した事業ではなく、NPOや商工会など活用分野に応じて支援を行ってきた。
- ・KPIとしても、創業支援R3(0)、R4(3)、R5(4)、まちおこしR3(1)の女性起業があった。
- ・主な事業以外にも、総合的に新規企業やチャレンジを支援していく施策を展開する。

《今後に向けて》

- ・白川町で活躍できる新たなチャレンジを、創業支援やまちおこし支援等により後押ししていく。

3 働きたくなる情報の集約・発信

町内には未だ知られていない企業、事業所があり、それらの情報をわかり易く町民や町外へ伝え、求職、就業につなげる取り組みができたか？

短期的、季節的な仕事、年間を通じて働くことができない仕事をつなげ、安定した雇用を生み出す仕組みについて研究し、マルチワークの働き方が提案できたか？

主な事業 >>>> 自主放送制作放映委託事業、ふるさと就業情報提供事業

《評価》

- ・担い手の数は、達成した。
- ・施策は、情報発信やPR、受け皿となる組織育成、支援制度の充実の三本柱で支援した。
- ・情報発信は、SNSを中心にヤゴのフォロワー増、その他投げ込みやプレスは低
- ・ワークドットを中心としたライフワーク提案、商工会等との連携
- ・創業支援や副業人材の活用の充実

《今後に向けて》

- ・効果的な施策、事業に注力する。
- ・ワークドット事業の人材循環型モデルを総合的な担い手確保と受け入れ態勢充実に取り組む施策へ展開する。
- ・町内中高生と他地域の大学生との地域連携を図り、人材の対流を促す。

4 様々な働き方と暮らしの提案

働き方改革の一環としてサテライトオフィス、ワーケーションなどの誘致を実践し、地方の豊かな環境を求める企業、個人の希望に答えることで、本町の新たななりわいづくりを進めることができたか？

女性の社会進出を支え男性の子育てに関わる機会が増える取り組み、あるいは半農半Xな生き方など、多様な働き方、暮らし方の提案ができたか？

主な事業 >>>> なりわいづくり創出事業

《評価》

- ・サテライトオフィスの誘致数は、未達成
- ・空き家の活用、ワーケーション、サテライトオフィスなどサポセンが主体となって推進し、名古屋圏を中心に認知度や活動量を増やしてきた。
- ・グリーンツーリズムやコロナ対策を活用し、Wi-Fiなどワークスペース整備を実施
- ・活動量に対する効果が想定より低く限定的であることから、事業の見直しが必要

《今後に向けて》

- ・岐阜DO農泊やグリーンツーリズムなど、今後は推進していく組織の活動をPRし、後方支援的な取り組みにシフトしていく。
- ・引き続き空き家活用を推進し、シェアハウスやコワーキングスペースなど活躍人材の交流する場の提供を進めていく。
- ・町内企業の意識改革、働きやすい職場環境への改善など商工会やワークドットを中心とした事業者の横断的な取り組みを推進する。

施策①:生活支援(子育て支援・高齢者支援)の充実

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	現状値	達成状況
1 子育て支援センター利用者数	3,500人	2,500人	3,700人	○
2 健康寿命	男性77.6歳	延伸	男性80.6歳	○
	女性84.7歳		女性84.9歳	
3 出生数	24人	30人	12人	×

1 途切れのない子育て支援・子育てしやすい環境づくり

妊娠期から子育て期の途切れのない支援体制を図るため妊娠初期から出産前後や、乳幼児の成長段階において各種関係機関で親子を見守り、保護者(母親)の精神面を含めたきめ細やかな支援が実施できたか？

子育て支援センターが子育てする母親が安心して訪れることができる身近な相談場所となるように、乳幼児学級や各種イベントの開催など進めることができたか？

主な事業 >>> 妊婦健康診査費助成事業、子育て応援給付金、子育て支援センター運営事業

《評価》

- ・KPIは達成見込み。
- ・子育て支援センターでは、保護者と支援センター職員の信頼関係を築いた。
- ・子育て支援計画のニーズ調査を行い、託児を取り入れ母親の交流を促すなど、安心して集まれる場所としての認識が進んだ。
- ・支援センターやおひさま、保健師との連携や情報共有を行い、面的な支援体制を構築している。
- ・女性の働き方により、未満児保育を利用する保護者が増加傾向にある。

《今後に向けて》

- ・女性の働き方により、早期に職場復帰される保護者もいることから、支援センターの保護者同士の交流や相談窓口としての機能を強化していく。

2 高齢者が生きがいを持ちあんきに暮らせるまち

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、その能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、医療・介護・住まい・生活支援・介護予防など包括的ケアの視点を持って支援することができたか？

主な事業 >>> 健康づくり推進事業、高齢者世帯見守り事業

《評価》

- ・KPIの健康寿命は、男性女性共に基準値より延伸した。
- ・健診の受診勧奨と重症化予防のための医療連携による早期受療で健康である年齢が伸びた。
- ・面での支援体制(医療・健康・介護予防等)を意識することで、適切な相談対応窓口への案内や専門性の高い支援が受けられた。
- ・サロン、貯筋体操、配食サービスによる日常生活支援等の推進により、引きこもり予防、交流促進、身体機能強化を図り、高齢者が生きがいを持って安心して暮らせる支援を行った。
- ・シニアカーの補助や、公共交通の活用等により、移動の障壁を無くし気軽におでかけのできる環境を整えた。

《今後に向けて》

- ・生活支援には他分野との連携が必要であるため、引き続き連携強化していく。

3 出会いサポートの推進

出産・子育てに繋げていくため、婚姻に繋がる出会いの場の提供や出会いサポートに関わる人を増やすことができたか？

主な事業 >>> 結婚促進事業、同窓会開催奨励事業

《評価》

- ・出生数は、目標未達成
- ・結婚相談員を廃止し、ぎふマリッジサポートのアプリ活用に移行した
- ・同窓会開催奨励は、コロナ規制で休止しているが、結婚対策や出生数増への効果が限定的であるため、事業の見直しが必要。

《今後に向けて》

- ・出生数を増加させるには、若い女性が活躍できるまちづくりが必要であり、①女性が働きやすい仕事とキャリア支援、②育児環境の充実、③住居や生活支援の強化、④結婚支援や地域交流イベントの推進、⑤地域の魅力発信と新しいプロジェクトの推進など、総合的に施策展開が必要である。
- ・各課の取り組みの連携、隙間の無い支援、膨大な人的リソースと予算を必要とする。
- ・子育て世代の女性や、やむなく町外へ提出されたファミリー層へのグループインタビューを実施し、ニーズ調査や問題点を整理する。

基本目標② しらかわで あんきに子育て あんきに暮らす

まちの創生

施策②：生活基盤の見直し・整備・拡充

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	現状値	達成状況
1 公共交通の年間利用者数	47,704人	42,000人	55,507人	○
2 白川町の強靱化度	42点	53点以上	50点	△
3 ICTを活用した取り組み件数	2件	6件	6件	○

1 地域の社会教育施設等の機能強化、見直し

老若男女あらゆる地域住民が集う地域コミュニティの核となる場所となるよう図書館(楽集館)、公民館、ふれあいセンターなど社会教育施設の機能を強化することができたか？

---学童保育の空き教室や公民館等での実施、空き教室で地域活動、公開講座など---

主な事業 >>> 公民館活動推進事業

《評価》

- ・KPIの達成状況は、参加人数を達成している。参加人数は延べ人数としている。
- ・公民館講座の講座数は増加している。
- ・講座参加者の固定化の傾向がある。
- ・地域学校共同活動の取り組みから地域主導で児童クラブ(黒川)が開講し、空き教室活用の代わりに地域の公民館施設の利用も進んだ。
- ※コミュニティ活動の活性化⇄公民館施設の活用

《今後に向けて》

- ・60代後半から80代までの講座参加が多く、参加者の固定化が懸念されているが、青年や壮年を対象とした講座の提案(コーヒー淹れ方教室)も行っていく。
- ・放課後子供教室(学校機能の地域移転)と放課後児童クラブ(親の就労条件・保育)との制度上の違いがあるが、子供の居場所づくりの充実に向けて連携していく。

2 誰もが気軽に「おでかけ」できるまち

通勤、通学や通院といった必要な移動だけでなく、行きたくなる場所、コトといった暮らしを豊かにするまちづくりとの連携やみのかも定住自立圏域の市町村と連携し、圏域内の移動がより便利になる仕組みづくりに取り組みことができたか？

主な事業 >>> 公共交通対策事業

《評価》

- ・KPIの達成状況は、目標人数を達成している。
- ・公共交通のターゲット層を高校生と高齢者に設定し、通学と通院・買物に便利なダイヤにすることで多くの利用者を獲得することができた。
- ・広報紙やSNS、ホームページなどあらゆる媒体を活用して、より多くの方に公共交通の使い方や利便性などをPRした。
- ・病院や商店だけでなく、シルバーやシニアクラブ、スポーツ団体などコトに繋げる公共交通を意識することで、乗合やゆとりを持った移動などの理解につながった。

《今後に向けて》

- ・公共交通計画に基づき、必要な施策を実施していく。

3 あらゆる分野で最新技術を活用

マイナンバー制度の浸透やキャッシュレス決済の普及など、国が進める住民サービスの向上の施策に応じ、IOT、ロボット、AIなどの先端技術の活用を各分野で推進することができたか？

主な事業 >>> ICT推進事業

《評価》

- ・ICTを活用した取り組み件数は、達成した。
- ・美濃白川DX戦略を策定し、引き続き行政や地域のデジタル化を推進している。
- ・行政のデジタル化については、情報のデータ化という初期の段階。
- ・行政支援によるデジタル導入は、実装から活用への展開が課題となっている。
- ・光ファイバーや行政Wi-Fiなどデジタル環境の充実や保全を官民共同で実施。

《今後に向けて》

- ・美濃白川DX戦略に基づいて、特に5つの重点項目の実装と活用を図る。
- ・国のデジタル田園都市国家構想に則し、だれ一人取り残さないデジタル化へのサポート、便益の享受を推進する。
- ・ICT推進協議会が中心となって、町全体のデジタル化やICT活用の実行管理を行い、様々な推進組織との連携や情報交換による合意形成・実行計画を支援する。

4 安心を感じられる基盤づくり

災害を未然に防ぐための防災対策は、「白川町国土強靱化地域計画」に沿って取り組みができているか？

災害が起きた場合の被害を最小限に抑えるための減災対策は、自主防災活動への支援、避難所機能の強化、異業種間との災害時応援協定の締結や町内民間事業者との連携強化に取り組むことができたか？

主な事業 >>> 防災減災対策推進事業、避難所機能強化事業、庁舎維持管理事業

《評価》

- 白川町国土強靱化地域計画に対しての評価は難しいが、「起きてはならない最悪の事態」を回避するため、各課・係でそれぞれ各種施策について取り組んでいる。
- 減災対策については、自主防災活動を強化するため、令和4年度から防災アドバイザーを雇用し、その活動を行ってきた。また、避難所機能の強化として、令和4年度までに避難所で必要となる備品・物品の集中的な整備を図った。
- 災害時応援協定も引き続き業者との締結を行っている。

《今後に向けて》

- 避難所機能強化事業は、集中的に備品等の整備を図ることができたことから、令和6年度から防災・減災対策推進事業に統合を図ったところである。
- 災害への備えを適切に行うため、今後も引き続き継続していく必要がある。

施策①:地域人材の育成・地域教育の充実

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	現状値	達成状況
1 子どもの良さを伸ばす経験の機会	—	60%	78%	○
2 地域行事への参加意欲	—	80%	80%	○
3 「ふるさと白川」のよさの認識	—	70%	68%	△
4 「ふるさと白川」の課題の認識	—	60%	64%	○
5 持続可能な社会実現の意欲	—	50%	59%	○

目標値は全て最終年度数値

(出所)「町独自の調査による」(毎年10月に実施。小学5年生から中学3年生及び保護者を対象)

1 清流白川への回帰

地域住民が先生となり、町内の小学生に対して、伝統行事、遊びを通じた体験活動を行い、郷土愛の醸成を図ることができたか？

主な事業 >>> 清流白川への回帰事業

《評価》

- ・KPIは、「ふるさと白川」の良さの認識以外は達成見込み。全ての数値目標は、延伸している。
- ・中学生までの体験活動など郷土愛の醸成を図り、地域教育の充実を行った。
- ・清流白川への回帰事業(里山体験・留学)は、コロナ禍の自粛期間を除き支援団体の取り組みによって、地域資源を活かした川遊びや林産小物制作、野外活動など町内外の小中学生に対して白川の魅力再発見につながった。
- ・特色ある教育活動事業では、地域住民や活動団体が講師となり、地域の特色に応じて産業や文化面での教育活動を実施した。

《今後に向けて》

- ・清流白川への回帰事業(里山体験・留学)は、委託7回、団体主催1回実施しており、地域教育の充実として効果を上げてきた。参加者の固定化の問題もあり実施方法や内容を見直し、他団体との連携を視野に地域教育の充実を図る。
- ・特色ある教育活動や職業体験など、地域住民や企業、学校、支援組織、行政と一体となって地域人材の育成を図り、白川町に働き暮らせる基盤を構築していく。

2 大学との連携による人材育成

大学と連携し、本町をキャンパスとして農林業人材の育成を進めることができたか？

大学生とともに町内の小中高生がものづくりや流通、小売りを体験する、子ども起業体験プログラムを実施するなど、課題解決型地域実践学習の推進ができたか？

主な事業 >>> 域学連携事業、早期起業家育成事業

《評価》

- ・KPIは課題認識や解決意欲について、効果測定後延伸で目標も達成見込み。
- ・大学連携は、現在名古屋大学、名古屋市立大学、中部学院大学、岐阜大学と連携協定を締結しているが、直接的に町内小中高生との関係性は築けていない。
- ・農林業人材の育成は、県立森林文化アカデミーと連携し、林業者の育成を行っている。また、中部学院大学と連携して白川茶の特産品開発でフレーバーティーを商品化し、(有)白川町農業開発のマーケティング能力の開発に寄与した。
- ・白川中学校の起業化体験を白川ワークドット協同組合と実施し、白川茶のブランディングや特産品の課題探求に取り組んだ。

「今後に向けて」

- ・本町の高校生以降の関係性の構築と継続は、今後の課題となっている。
- ・大学や他機関の学部等に応じた連携課題を設定し、適切な活動団体と活動フィールドを提供し、継続的に効果をあげられる制度設計を行う必要がある。
- ・ものづくりや流通、小売販売など地域の特産品や産業などに小中学校から興味を持ち課題を課して、人材育成と地域教育を推進する。
- ・白川ワークドットが町内外の若者や学生、町内企業とのプラットフォームの役割を担い、地域の人事部として地域産業の活性化と人材育成を図っていく。

3 少人数のメリットを最大限活かす特色ある教育活動の推進

少人数ならではの一人ひとりの子どもに寄り添える教育を更に深めるとともに、ICTを活用した先駆的な教育にも積極的に取り組むことができたか？

各校それぞれの特色ある教育活動を推進するとともに、各校合同による教育活動を有効に活用するなど、少人数のデメリットを克服することができたか？

主な事業 >>> 特色ある教育活動推進事業、ICTを活用した教育の質の向上
合同教育活動支援事業

「評価」

- ・KPIは、「ふるさと白川」の良さの認識以外は達成見込み。全ての数値目標は、延伸している。
- ・インクルーシブデザインの導入を目指し一人1台タブレット導入等ICT機器の活用により個々の児童生徒にあった学びと協働学習に努めることができた。
- ・学校間連携活動(共同授業、スポーツ・総合交流会、読書など)少人数の課題を補う交流活動を実施した。
- ・特色ある教育活動は、各学校がふるさと学習に注力しており、地場産業や伝統芸能の体験活動が充実している。

「今後に向けて」

- ・白川町GIGAスクール構想による学習支援ツール(思考・表現、遠隔授業、個別学習)を活用し、個々の児童生徒にあった学びの支援を行う。
- ・ICT教育の環境整備のため、教師の教育研修や研究を実施する。遠方の児童同士の交流もICTを活用して推進する。
- ・今後の学校再編を見据え、再編後の校区の小中学校の縦の連携や学校間の横連携を意識した特色ある教育活動に発展させる。
- ・「体験を通して、身体をつくり、言葉を育て、志の芽を養う」9年間の一貫教育を実現

4 地域への愛着と誇りを育てるふるさと教育の推進

文化財保護事業、社会教育活動事業、青少年育成事業などを通し、子ども、保護者、地域がそれぞれ、地域の絆の大切さ、ふるさとへの愛着や誇りに気づき、一人ひとりが地域を支える人材に育つふるさと教育の推進ができたか？

主な事業 >>> 青少年育成事業、社会教育活動事業

「評価」

- ・KPIは、「ふるさと白川」の良さの認識以外は達成見込み。全ての数値目標は、延伸している。
- ・ジュニアリーダーの育成やスポーツ交流、立志式から太志式へのつながりなど年齢間や地域間の関係性を意識した活動を実施している。

「今後に向けて」

- ・地域の見守り活動の効果
- ・ふるさと白川への愛着と誇りを持った人材を育むため、家庭教育学級や地域行事を通じて、学校、地域、家庭が連携して取り組む。

施策②:地域コミュニティ活動の推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	現状値	達成状況
1 自治会加入率	86%	86%以上	88.63%	○
2 公民館講座参加人数	2,720人	2,500人	3,091人	○

基準値は2020年度実績 目標値は最終年度数値

基準値は2020年度実績 目標値は最終年度数値

1 みんなで地域をつくるまち

地域づくりのスペシャリストの助言を受け、町内外のさまざまな人に参加してもらいながら、イベントやワークショップを開催し、みんなの参加による地域づくりができたか？

主な事業 >>> 地域クリエイター養成事業

《評価》

- ・直接的に評価検証するKPIは不明だが、加入率・参加人数とも達成見込み。
- ・地域クリエイター養成による地域活動への波及は、確認できない。
- ・非営利活動組織(NPO)や住民組織の取り組みを支援するため、まちおこし推進補助金を交付して、マルシェやイベントの実施、女性カフェや自然教育団体、蘇原地区の愛郷教育組織の設立・運営支援を行った。
- ・コロナ禍の会合自粛の影響により、町内外の人材参加による地域の維持や活性化活動が制限された。

《今後に向けて》

- ・多様な関係者による地域の維持活動や活性化事業は、プラットフォームとなる場の創出と人材ネットワークの構築が必要である。また、人材の発掘や育成など、粘り強い支援が重要となってくる。
- ・合意形成の後の組織設立や育成は、必要な財政支援等が確立されている。

2 地域コミュニティの交流拠点の創造

町民会館、各地区ふれあいセンターなどの一角や自治会公民館をコミュニティカフェとして開放し、さまざまな人が集い、活動できる拠点として活用することができたか？

主な事業 >>> コミュニティカフェ開設事業

《評価》

- ・直接的に評価検証するKPIは不明だが、加入率・参加人数とも達成見込み。
- ・町民会館、各地区ふれあいセンター、自治会公民館のコミュニティカフェによる交流拠点は、確認できない。
- ・林業センターによる女性グループのコミュニティカフェは、まちおこし推進事業により環境整備支援を行い、地域のコミュニティ憩いの場として定着している。
- ・白川町社会福祉協議会による高齢者サロンは、コロナ禍の自粛により活動を休止していたが、令和5年度から再開し、地域の見守り機能を果たしている。

《今後に向けて》

- ・公民館機能の充実や拠点機能の新たな展開は、今後の課題となっている。
- ・地域コミュニティのニーズや対象者の区分、集まりやすい場所など地域ごとで違いがあるため、地域の状況に合わせ寄り添い方のサポートが必要。

3 地域を守るきずなの強化・支援

自主防災、獣害対策、生活環境問題、自然環境の保全、地域の伝統文化の伝承、高齢者世帯の見守りなど、地域全体で取り組まなければならない課題に対し、住民同士が対話を深め、みんなで課題解決に向けて取り組めるよう地域組織への支援を推進することができたか？

主な事業 >>> 景観整備事業、共助のまちづくり事業

《評価》

- ・直接的に評価検証するKPIは不明だが、加入率・参加人数とも達成見込み。
- ・自治会や自治協議会の自治について、各分野ごとの対話や合意形成は図られ、必要な組織体制の整備や活動など行われてきた。
- ・地域全体で取り組まなければならない総合的に絡み合った問題や現象など、分野横断的に協議し課題解決を図る事案については、住民同士の対話の場づくりや地域組織への支援など実施することが出来なかった。

《今後に向けて》

- ・住民自治の強化に向けて、効果的な施策や支援内容など地域の実情に合わせて企画立案し必要な対策を講じる。

施策①:移住やUターンの促進

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	現状値	達成状況
1 転入転出の差	△103人	△30人	△95人	△
2 空き家の解消	13戸	80戸	84戸	○
3 移住者の人数	25人	120人	110人	△

基準値は2020年度実績 目標値は最終年度数値

基準値は2020年度(過去6年間の平均値)実績 目標値は4年間の合計数値

基準値は2020年度(過去5年間の平均)実績 目標値は4年間の合計数値

1 移住・交流の推進

移住交流サポートセンターを拠点にして、移住者や交流人口の増加を図るための取り組みを推進することができたか？

「移住コーディネーター」や「移住支援団体」の育成により移住希望者への支援が行えたか？

《評価》

- ・KPIについて、移住者の累計は毎年20人前後増加しており、目標達成見込み。
- ・移住については、移住交流サポートセンターの相談窓口と空き家バンク機能によって受け入れ態勢が整っている。
- ・現状は移住コーディネーターである集落支援員により相談体制を確保している。
- ・移住支援団体については、仕事やコミュニティ支援として白川ワークドット協同組合の設立育成を実施した。また、NPO法人ゆうきハートネットによる起業と住居支援の効果がある。

《今後に向けて》

- ・移住交流サポートセンターの移住相談と空き家バンク機能を強化するため、必要な支援を実施する。
- ・他の支援団体との連携により、専門性の高い支援を行い、支援の重複を防ぐ。

2 空き家・空き店舗の有効活用

所有者に対する普及啓発を推進し、町内の空き家、空き店舗の有効活用を図ることができたか？

利活用が可能や空き家や空き店舗についての情報発信の充実を図るほか、サポートセンターによる「空き家サブリース」など積極的な住宅確保ができたか？

《評価》

- ・KPI空き家の解消は、達成見込み。
- ・空き家バンクを受託している白川移住交流サポートセンターの取り組みにより、空き家・空き店舗の有効活用が出来た。
- ・役場税務係と連携し、町外の固定資産所有者への通知に空き家バンクのチラシを封入し、周知啓発を図った。
- ・移住希望者のニーズに沿った空き家紹介をワンストップにより行い、空き家の活用による移住者受け入れを行った。
- ・空き家サブリースにより、サテライトオフィスの誘致に成功した。

《今後に向けて》

- ・引き続き、白川移住交流サポートセンターの移住相談窓口と空き家バンクのワンストップサービスで、利用者に寄り添ったきめ細かな業務を行う。

3 危険空き家の対策

空き家のうち「危険空き家」に該当する恐れのあるものについては、速やかな改善を図るため所有者に対し、除却、修繕等の措置をとるよう助言又は指導を行うとともに、白川町空き家対策協議会と連携を図ることができたか？

主な事業 >>> 移住定住・交流推進事業

《評価》

- ・KPI空家の解消は、達成見込み。
- ・企画課を中心に、建設環境課や町民課税務係、移住交流サポートセンターと連携して空き家の情報共有を行った。
- ・幹線道路や近隣トラブルの恐れのある管理不全空家について、所有者に除却の勧奨を行い、空家等除却補助金を活用するなど解消に努めた。
- ・空家等除却補助金の補助額を上げて、推進を図った。
- ・白川町空き家対策協議会を毎年度実施し、空家を取り巻く社会状況や政策等の研修や情報交換を行い、各分野との連携を図り推進体制を整備した。

《今後に向けて》

- ・引き続き関係機関の連携により、危険空家や予備軍の状況把握に努める。
- ・白川町空き家対策協議会の実施により、適切な推進体制の構築を図る。

4 地域人材のふるさと定着促進

大学や専門学校等に進学した際の奨学金の返還金に対する助成を行うことで、能力を高めた地元出身者のUターンを促すことができたか？

主な事業 >>> 地域人材ふるさと定着促進事業

《評価》

- ・KPI転入転出の差は、年度ごとに増減があるが、目標を達成するのは困難な見込み。
- ・地域人材ふるさと定着促進事業により、Uターン者の奨学金返還支援を行い、地域づくり人材の確保と定着を図った。対象者の減少や、結婚や転職等の理由により町外へ転出する対象者も見られる。

《今後に向けて》

- ・地域人材ふるさと定着促進事業は、事業効果に再考の必要があるため廃止・見直しを行う。

施策②：交流人口の拡大・白川ファンの増加

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値	現状値	達成状況
1 町内観光入込客数	253,163人	273,400人	245,862人	×
2 体験型プログラムによる宿泊者数	—	338人	349人	○
3 町に関わりのある人口の数	1,340人	2,140人	1,588人	△
4 ふるさと納税の納税額	35,000千円	43,000千円	47,934千円	○

- 1 基準値は2020年度実績 目標値は最終年度数値(出所)県観光入込客数調査
- 2 目標値は4年間の合計人数
- 3 基準値は2020年度実績 目標値は最終年度数値
- 4 基準値は2020年度実績 目標値は最終年度数値

1 ふるさととつながる人口の増加

ふるさとを離れた人達が集う同窓会などの機会を活用し、ふるさとの魅力を再認識してもらい、ふるさととのつながりを強化、関係人口の増加に繋げることができたか？

主な事業 >>> 同窓会開催奨励事業、成人祝賀事業

《評価》

- ・KPI応援人口の数は、毎年度延伸しているが達成は困難である。
- ・同窓会開催奨励事業は、コロナ禍の自粛により中断しているが、目標となる応援人口の増加やふるさとの魅力再確認についての効果は不明である。
- ・成人祝賀事業は、二十歳を機にふるさと白川町の魅力再確認とつながり強化を目指し開催している。参加者のニーズに合わせ記念撮影ブース設置や広報PR等を実施した。

《今後に向けて》

- ・同窓会開催奨励事業は、町出身者との関係性を構築する効果は低いと判断し、事業の見直しが必要。当事業は商工振興や同年代の交流を図るものであり、今後は地域通貨の行政プレミアム等に事業展開を行う。

2 白川ファンの拡充

美濃白川ふるさと会をはじめとした白川ファンの拡充や、ふるさと納税等により白川町を町外から応援してもらえる仕組みづくりが推進できたか？

また、クラウドファンディングを活用し、町内の賑わい創出や企業版ふるさと納税の活用に関与することができたか？

主な事業 >>> 白川ファンクラブ創設事業、ふるさと納税推進事業

《評価》

- ・KPI応援人口の数は、毎年度延伸しているが達成は困難である。ふるさと納税額は、毎年度延伸し、達成見込みである。
- ・美濃白川ふるさと会は、会員の高齢化や脱退等で会員規模の減少が進んでいる。新規会員も少数であり、活動が限定的となっている。
- ・白川ファンの獲得について、地域メディアを立ち上げ、若者を中心としたターゲットにSNSで情報発信を行っている。インスタフォロワー1100、Xフォロワー2800
- ・ふるさと納税推進事業は、魅力的な返礼品のPR等で寄附額が順調に伸びている。
- ・クラウドファンディングや企業版ふるさと納税についても実施し効果を得た。

《今後に向けて》

- ・白川ファンの拡充について、各団体や支援方法等の整理見直しが必要。
- ・関係人口＝地域活動の維持と活性化に関わる町外者という定義の中で、関係性の構築と活動提案を行えるメディアとコミュニティを強化する。
- ・ふるさと納税の推進について、さらなる魅力向上やプロモーション等で寄附額のさらなる増加を目指す。
- ・クラウドファンディングによる活動のスタートアップと、企業版ふるさと納税推進による町活性化プロジェクトの推進を引き続き行っていく。

3 タウンプロモーションによる町の魅力向上

インターネットやSNS、ケーブルテレビなどを活用したプロモーション活動の推進と、観光と広報、販売を一体的に考える仕組みを構築し、つながりを生むタウンプロモーションによる町の魅力アップに繋がったか？

主な事業 >>> 広報広聴事業、地域おこし企業人活用事業

《評価》

- ・KPIは、観光客入込数と応援人口について目標達成は困難な見込み。
- ・広報広聴事業を情報発信推進事業に統合し、町の総合的なタウンプロモーションによる魅力発信に努めた。
- ・広報しらかわのリニューアルによる行動のきっかけづくりと、地域メディアやゴーシラカワによる関係性の構築により、町に興味を持ち応援や関係したくなる入り口の整理を行った。
- ・地域おこし企業人(地域活性化企業人)制度を活用し、地域メディアの立ち上げを行った。

《今後に向けて》

- ・情報発信を引き続き注力し、広報紙の魅力アップとケーブルテレビの企画等を実施する。
- ・地域メディアのやゴーシラカワについて、まちの魅力発信と関係性構築のプラットフォームとして機能強化を進める。

4 グリーンツーリズムの推進

白川町ならではの体験型プログラムの開発として、白川町グリーンツーリズム協議会が中心となり「五感を刺激する観光資源」として白川町特有の文化・芸能などとも連携した体験型プログラムを提供することができたか？

主な事業 >>> 観光振興事業

《評価》

- ・KPI体験プログラムによる宿泊数は、目標達成の見込み。
- ・グリーンツーリズム推進協議会の活動により、農泊や民泊の環境整備を実施した。
- ・観光協会とグリーンツーリズム協議会の連携により、町の魅力発信とコンテンツ開発の体制整備が進んだ。

《今後に向けて》

- ・観光協会が中心となって、町の魅力や観光資源の情報発信を行う。
- ・グリーンツーリズム推進協議会は、観光協会や他団体との連携により町に人を呼び込む推進組織として体制強化を行う。

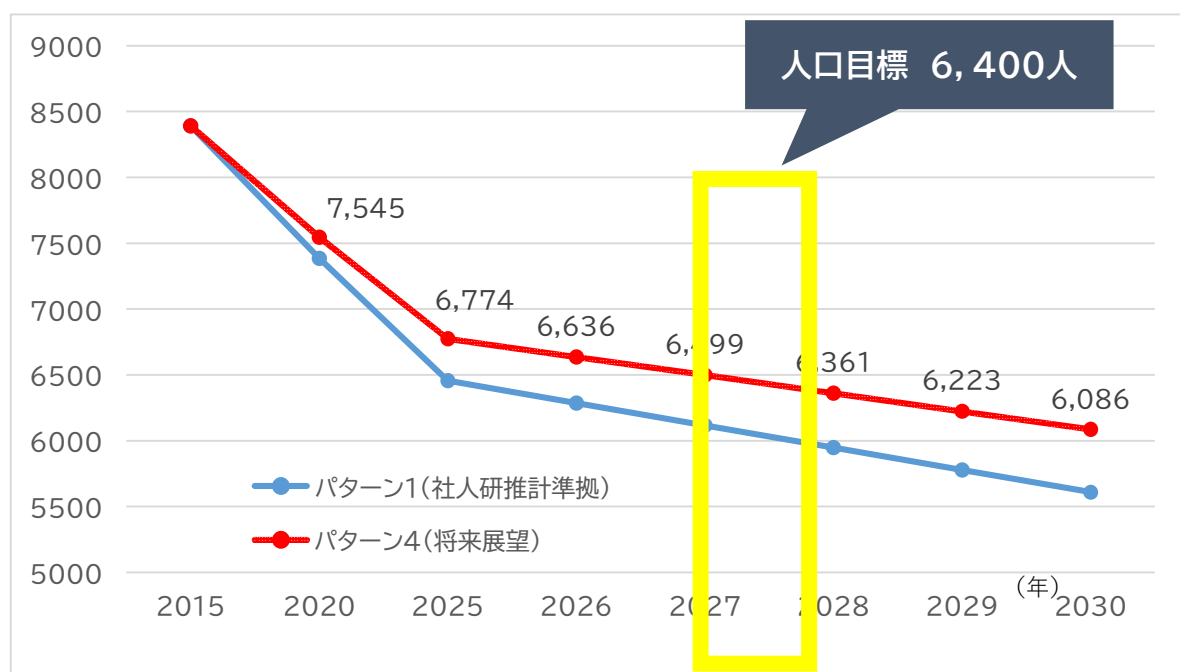
第2章 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価

第3節 人口の現状分析

1 人口目標

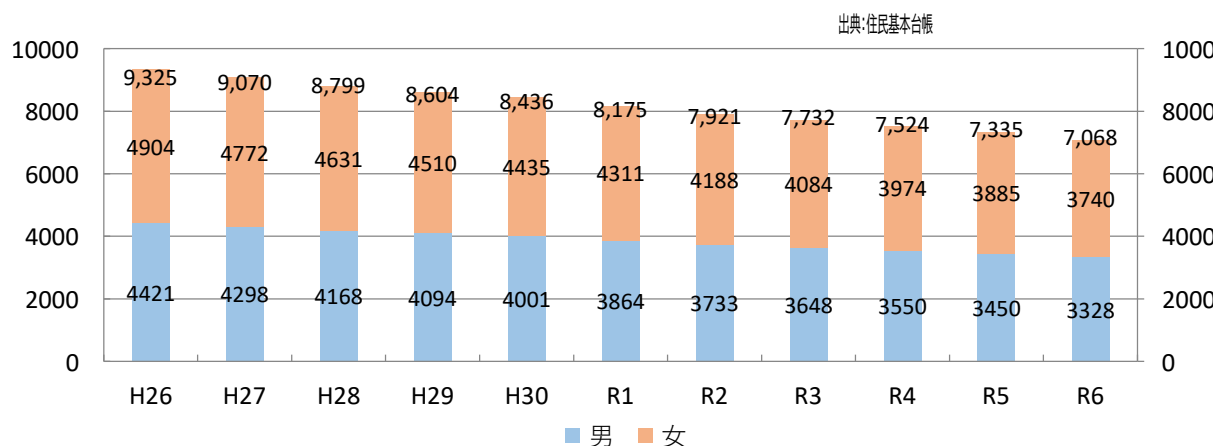
国勢調査の結果から本町の人口の推移をみると、2005年(平成17年)の10,545人から2010年(平成22年)9,530人、2015年(平成27年)8,392人と減少していますが、人口目標を踏まえ、計画的な住環境の整備、産業の振興、保健・医療・介護・福祉の充実、子育て・教育環境の充実といった施策を総合的に展開し、出生率の向上や移住・定住を促進していくことで、2028年の人口目標を6,400人と設定しています。

【白川町第6次総合計画より】

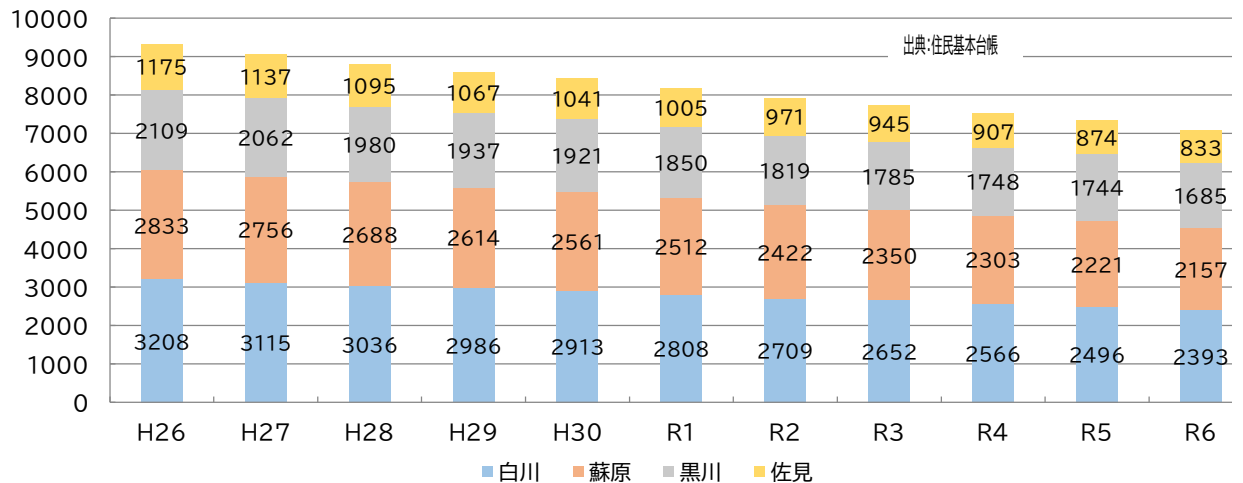


2 現状の分析 <<人口の動向>>

(1)人口(男女別)



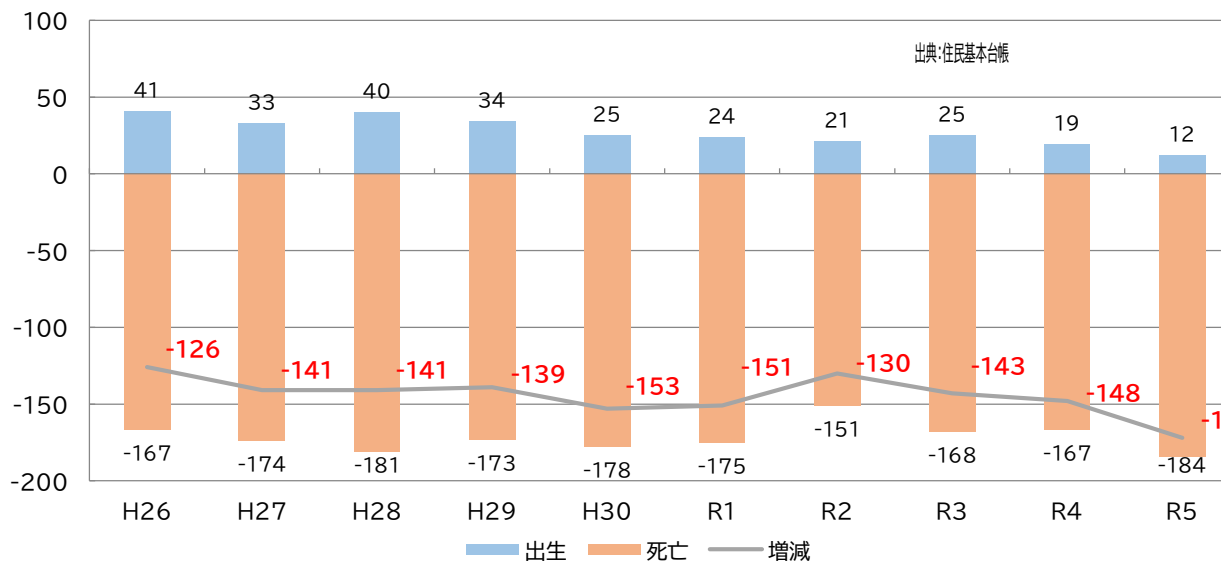
(2)地区別人口



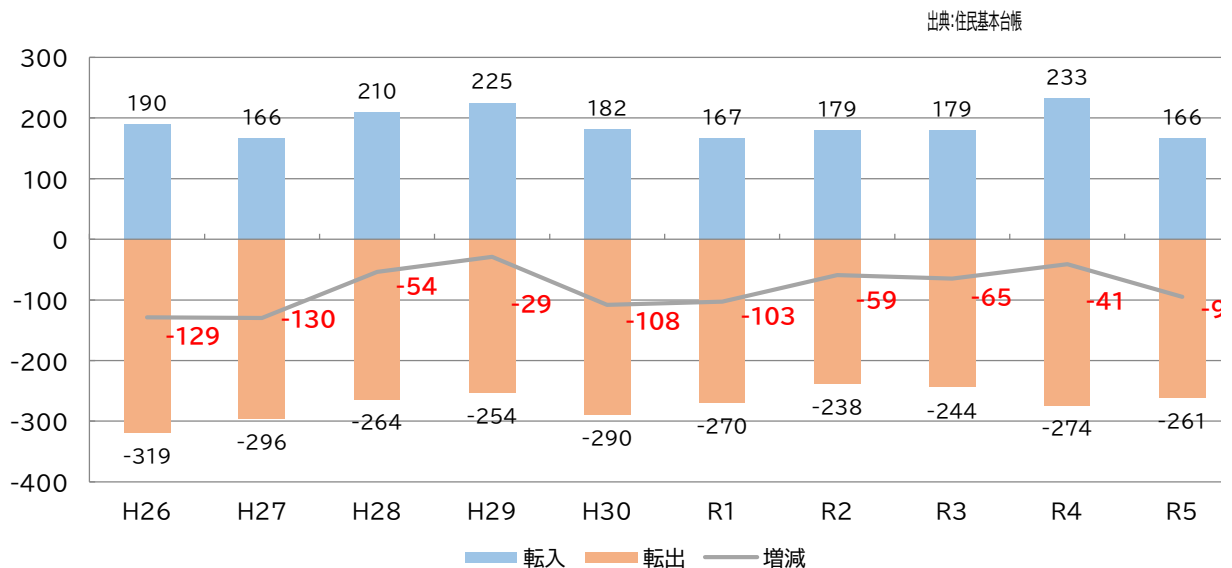
過去10年間における各地区の減少率は、平均24.6%となっています。

→ 白川地区 25.4% 蘇原地区 23.9% 黒川地区 20.1% 佐見地区 29.1%

(3)自然動態

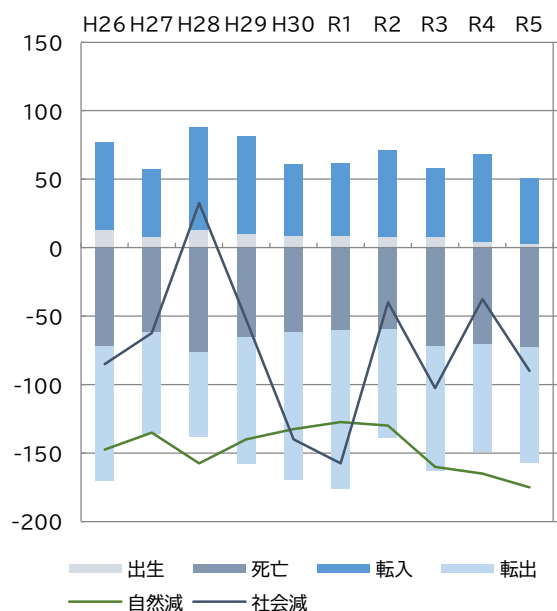


(4)社会動態

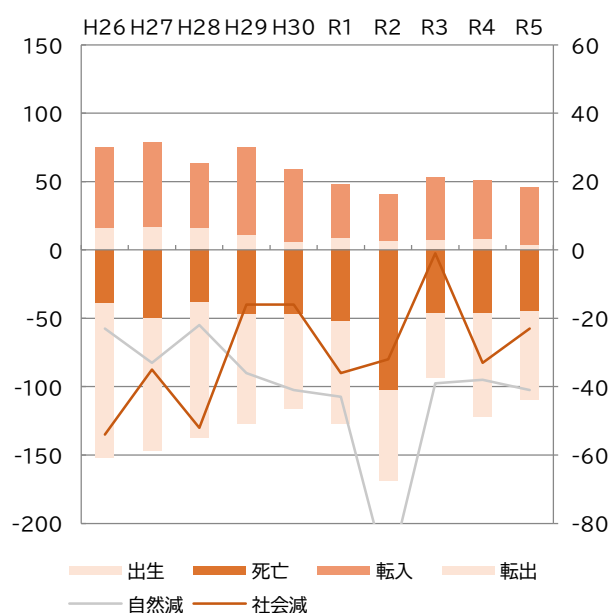


(5)各地区別の自然・社会動態

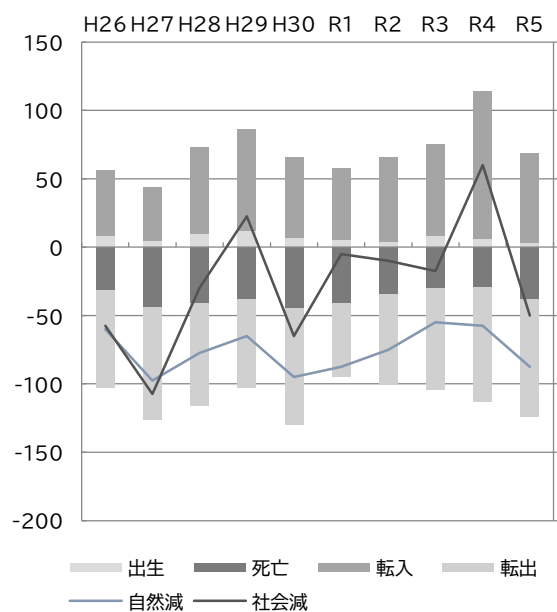
白川地区



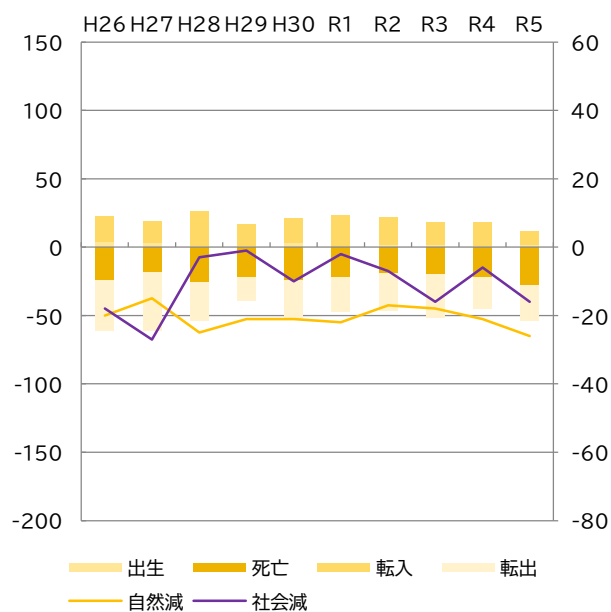
蘇原地区



黒川地区



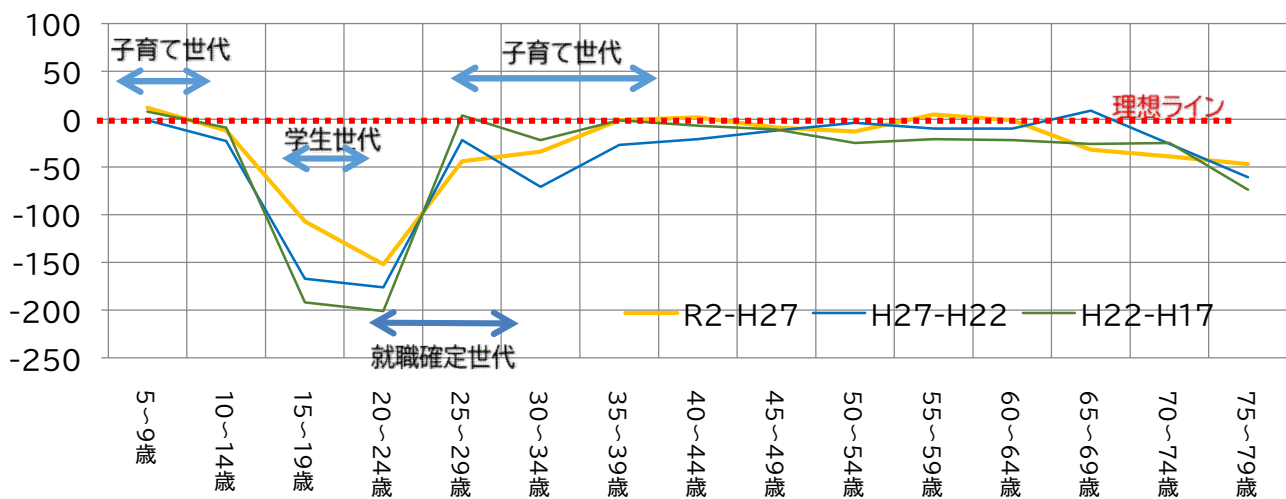
佐見地区



3 現状の分析 ≪人口の分析≫

(1)コーホート分析

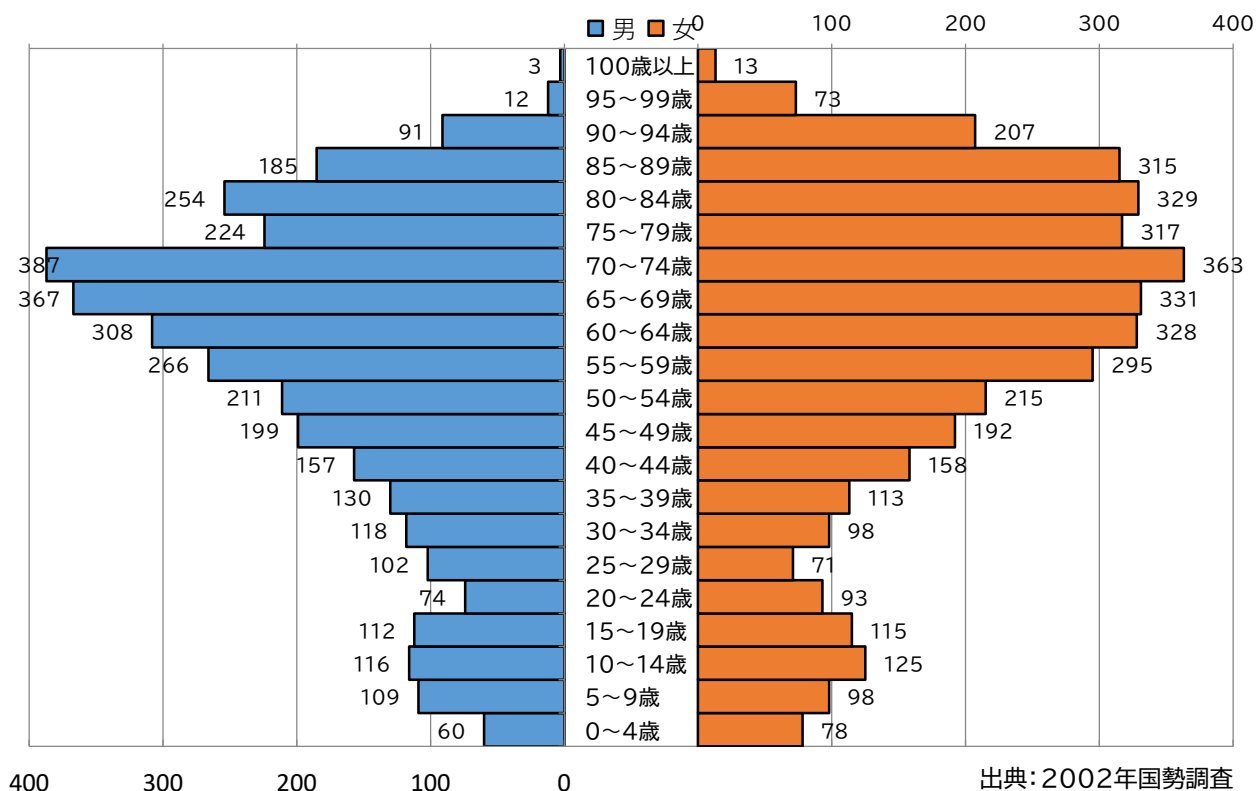
国勢調査の調査年差を利用し、5年差の群れが年を経て変化した増減数から、各年代の要因を分析します。



出典：各年国勢調査

学生世代の減少は、高校からの教育環境上仕方ないことですが、20～35歳代の就職確定世代のUターンが悪化していることがわかります。子育て世代については、25～29歳代の若年層の減少が顕著となっています。

(2)人口ピラミッド



65歳～74歳代の人口階層が最も多く、20歳～29歳代の階層が薄い状況となっています。出産時期の世代が少ないことから、出生数はさらに減少する予想となっています。

また、高齢者の階層と支える現役世代の階層の差が顕著であります。

第2章 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価

第4節 町民の声

1 まちの暮らしやすさ充足度アンケートの実施

調査の目的

人口減少や消滅可能性議論が注目される中、まち(白川町)に暮らしている町民が感じている暮らしやすさを調査することで、従来の経済指標だけでは捉えきれない町民の満足度を測定し、それを政策に反映させることで、より実効性のある暮らし続けられる持続可能なまちづくりを目指すため実施するものです。

今回の調査は、地域幸福度(ウェルビーイング)指標として以下の導入目的を持ちます。

- まちづくりにおける「人間中心主義」を明確化
▶住民の幸福度(ウェルビーイング)の向上に向けてまちづくりを進めます。
- 住民の視点から「暮らしやすさ」と「幸福度(ウェルビーイング)」を数値化・可視化
▶行政、企業からではなく、住民の視点に立ちまちづくりが住民の暮らしやすさや幸福度に繋がっているかを確認しながら進めます。
- 競争ではなく、地域の個性を磨く共創をめざす
▶まちの個性をさらに磨く気付きの材料となり、それぞれ地域の特徴を数値からとらえることができます。
- WHO等の国際的な枠組みを導入
▶都市部や地方都市、農山漁村など人口規模にとらわれない世界的な基準と整合させた枠組みを導入します。
- データ(根拠)に基づいた政策立案・検証
▶根拠に基づいた政策立案により、政策効果の乏しい歳出から政策効果の高い歳出への転換に活用できます。

地域幸福度を指標として活用することで、各地域において取り組まれる施策を「手段」として捉え、その成果を「目的」に対する結果として評価する仕組みを構築します。



出典: デジタル庁、地域幸福度指標利活用ガイドブック

地域幸福度指標の因子群とカテゴリー

アンケート調査では、地域における幸福度・生活満足度を計る4つの設問と、3つの因子群(生活環境、地域の人間関係、自分らしい生き方)から構成され、因子群は合計24のカテゴリーに細分化されます。

地域の暮らしやすさ24カテゴリー		
生活環境		【地域の人間関係】
【住環境】	デジタル生活	地域とのつながり
医療・福祉	公共空間	多様性と寛容性
買物・飲食	都市計画	【自分らしい生き方】
住宅環境	事故・犯罪	自己効力感
移動・交通	【自然環境】	健康状態
遊び・娯楽	自然景観	芸術・文化
子育て	自然の恵み	教育機会の豊かさ
初等・中等教育	環境共生	雇用・所得
地域行政	自然災害	挑戦・成長

24の因子群は、さらにアンケート調査時に46に細分化し地域の暮らしやすさを聞き取りしました。

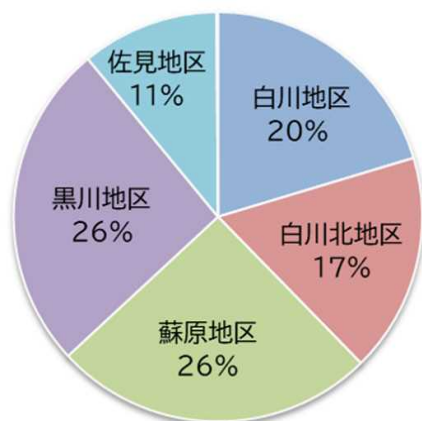
医療・福祉	1.医療機関が充実している
買物・飲食	2.介護・福祉施設のサービスが受けやすい
住宅環境	3.日常の買い物にまったく不便がない
移動・交通	4.飲食を楽しめる場所が充実している
遊び・娯楽	5.自宅には、心地のいい居場所がある
子育て	6.自宅の近辺では、騒音に悩まされている
初等・中等教育	7.適度な費用で住居を確保できる
地域行政	8.公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる
デジタル空間	9.楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある
公共空間	10.子育て支援・補助が手厚い
都市空間	11.子どもたちがいきいきと暮らせる
自然景観	12.教育環境(小中高校)が整っている
自然の恵み	13.通学しやすい場所に学校がある
環境共生	14.行政は、地域のことを真剣に考えていると思う
自然災害	15.公共施設は使い勝手がよく便利である
事故・防犯	16.行政サービスのデジタル化が進んでいる
地域とのつながり	17.仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい
多様性と寛容性	18.雰囲気は、自分にとって心地よい
自己効力感	19.まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある
健康状態	20.自慢できるまちの景観がある
芸術・文化	21.自慢できる自然景観がある
教育機会	22.身近に自然を感じることができる
雇用・所得	23.空気や水は澄んでいてきれいだと感じる
挑戦・成長	24.リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取り組みが盛んである
	25.防災対策がしっかりしている
	26.防犯対策(交番街灯・防犯カメラ・住民の見守り等)が整っており、治安がよい
	27.歩道や信号が整備されていて安心である
	28.私は、同じ町内(集落)に住む人たちを信頼している
	29.地域活動(自治会・地域行事・防災活動等)への住民参加が盛んである
	30.困ったときに相談できる人が身近にいる
	31.私は、町内(集落)の人が困っていたら手助けをする
	32.私は、この町内(集落)に対して愛着を持っている
	33.この町内(集落)には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある
	34.私は、見知らぬ他者であっても信頼する
	35.私は、町内(集落)の人が自分をどう思っているかが気になる
	36.女性が活躍しやすい雰囲気がある
	37.若者が活躍しやすい雰囲気がある
	38.自分のことを好ましく感じる
	39.私は、身体的に健康な状態である
	40.私は、精神的に健康な状態である
	41.文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい
	42.将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい
	43.学びたいことを学べる機会がある
	44.やりたい仕事を見つけやすい
	45.適切な収入を得るための機会がある
	46.新たな事に挑戦・成長するための機会がある

まちの暮らしやすさ充足度アンケート結果

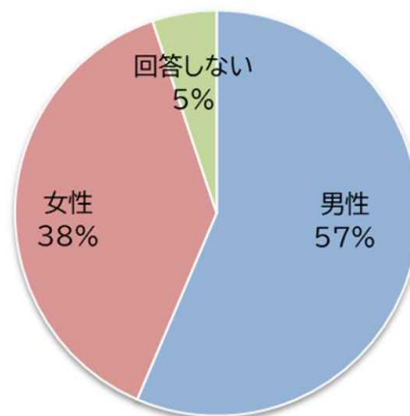
実施方法	広報1月号に全戸配布したアンケート用紙、ウェブによるアンケートフォーム
調査期間	令和6年12月27日～令和7年1月28日
対象者	平成21年4月2日生まれ以降の全町民
回答者数	1,930人

全体結果

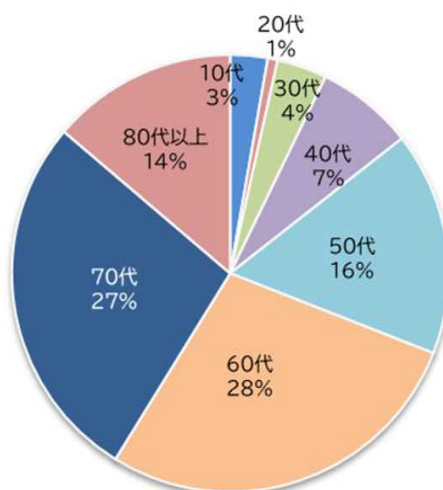
回答者の居住地



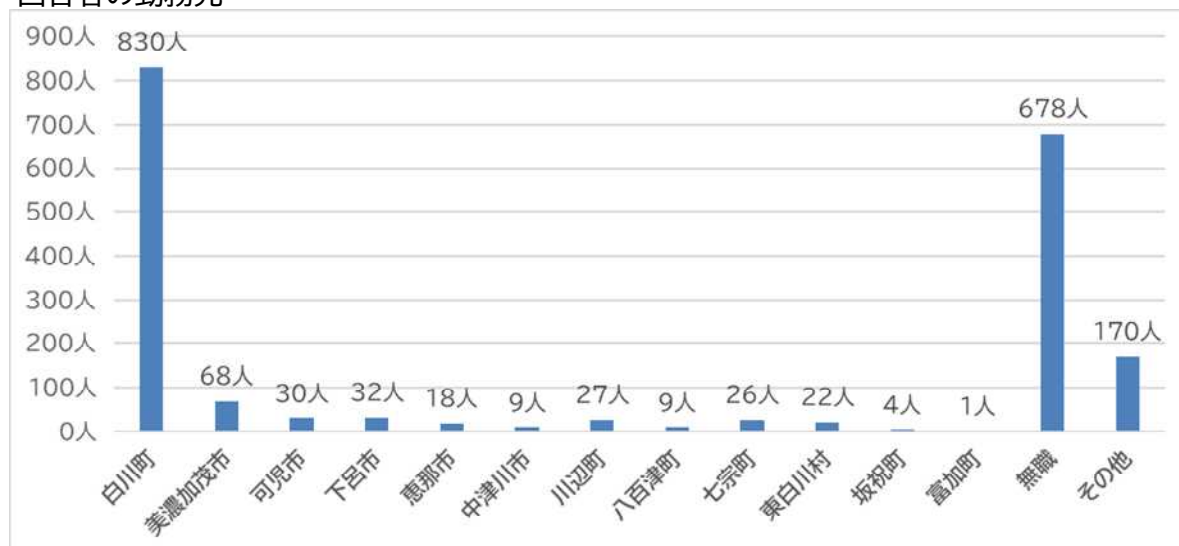
回答者の性別



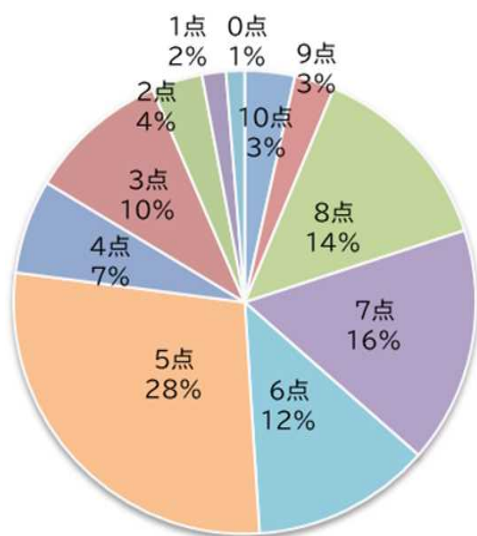
回答者の年齢



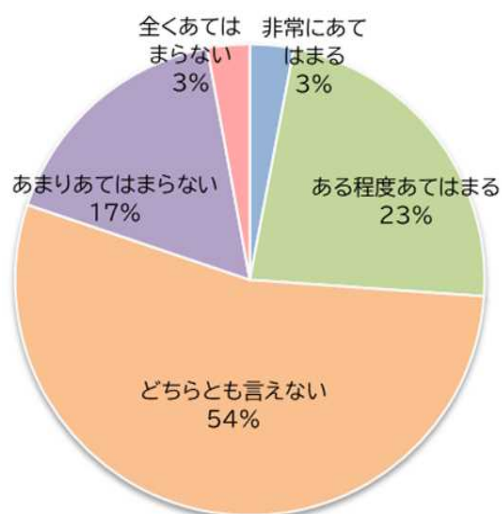
回答者の勤務先



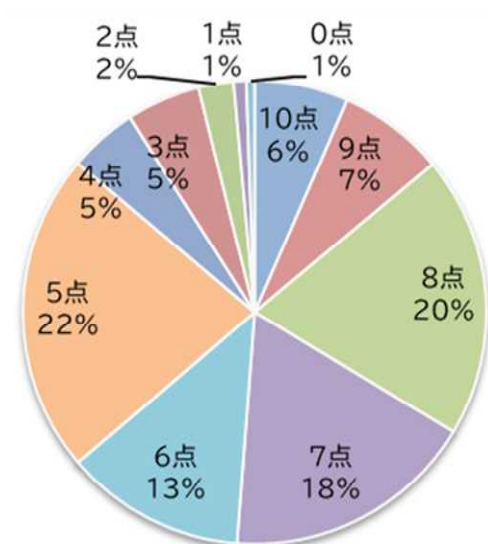
あなたが住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか



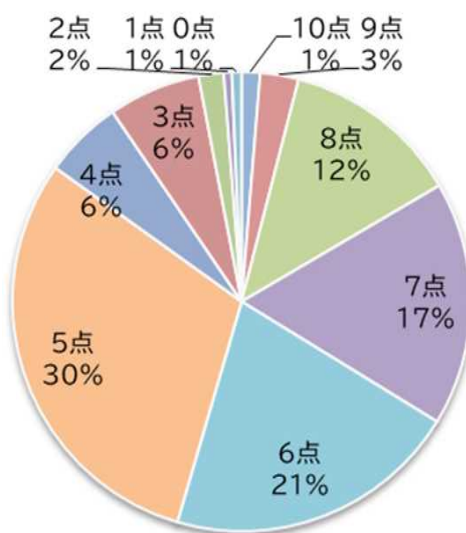
自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う



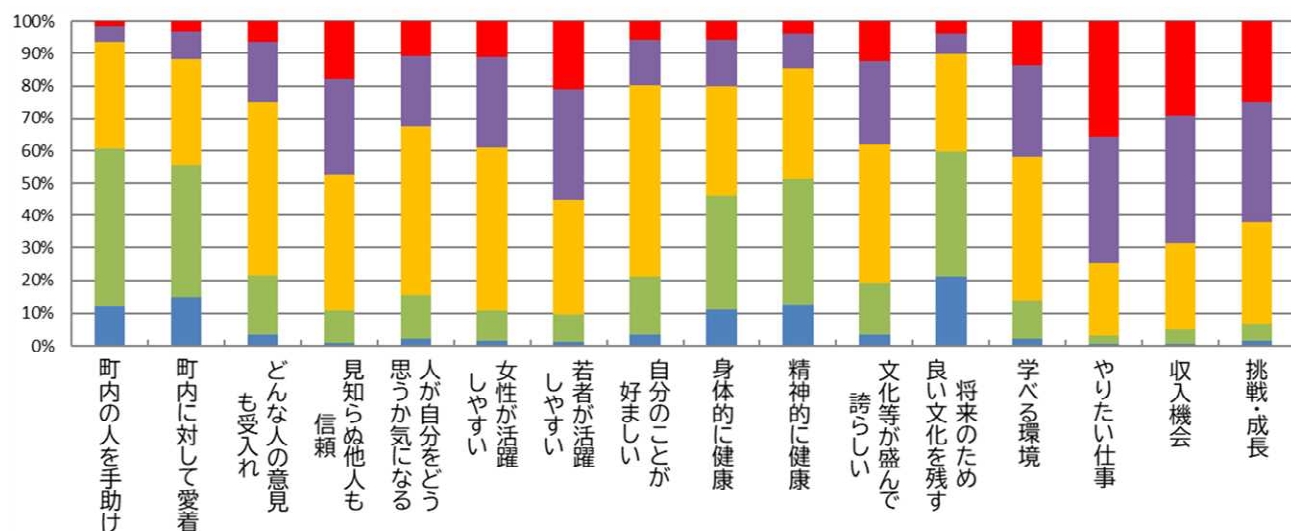
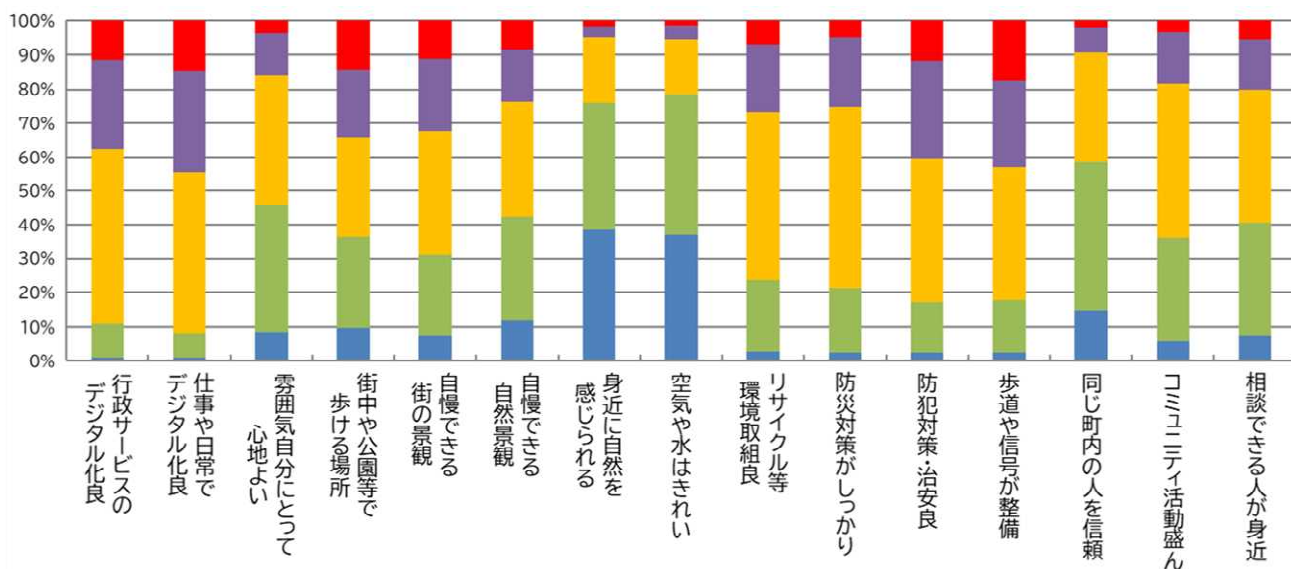
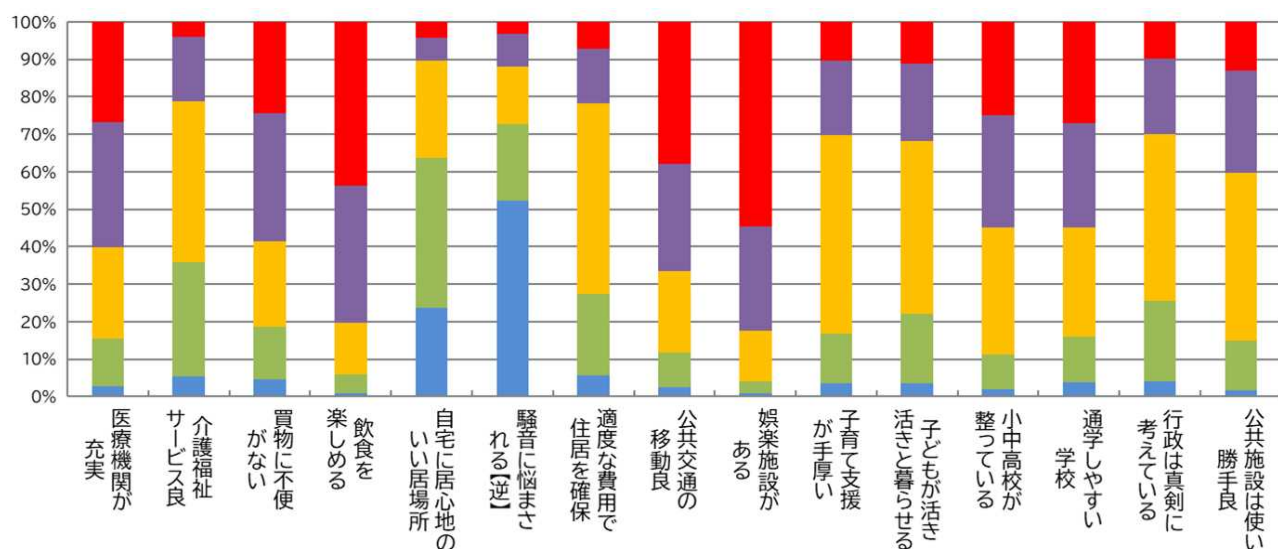
現在、あなたはどの程度幸せですか



あなたの町内(集落)の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか



■非常にあてはまる ■ある程度あてはまる ■どちらとも言えない ■あまりあてはまらない ■全くあてはまらない

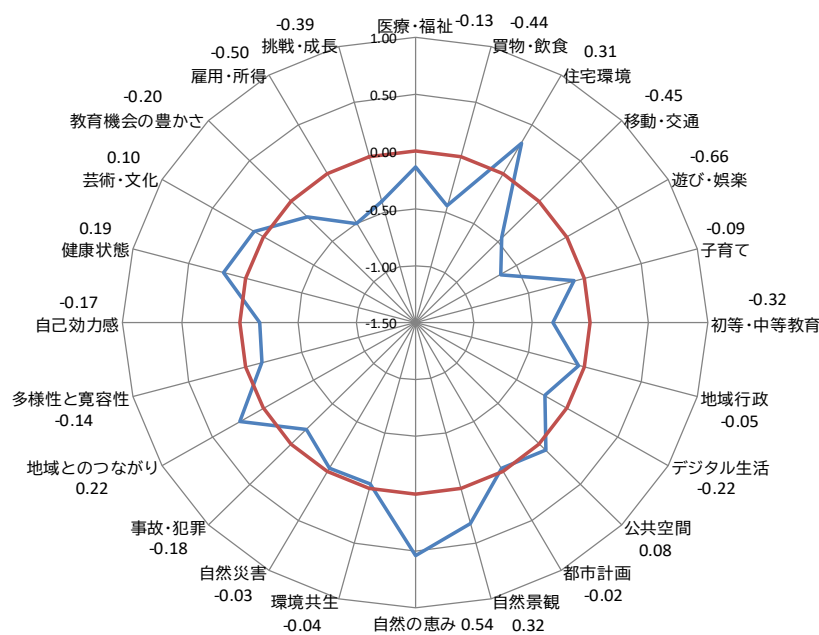


アンケート調査全体の結果

- 居住地では、2025年1月1日現在の人口(人口に占める割合)で、白川1226人(18%)白北1110人(16%)蘇原2105人(30%)黒川1651人(24%)佐見822人(12%)の割合となっている。アンケート回答率は、回答方法が各戸配布の用紙とウェブによる回答で年代を中学3年生以上としたため、対象者が限定できないことから算出していない。
- 勤務先・通学先は、仕事をしていない方を含めると白川町内で78%となっている。
- 回答者の69%が65歳以上となっている。
- 地域の生活満足度は、中間点の5を超える10点から6点を選択した方は48%に上る。
- 幸福度についても、自身では中間点を超える10点から6点を選択した人は64%に上る。周囲の人の幸せ度についても54%に上る。
- 地域幸福度指数の充足度では、46カテゴリーの生活環境、地域の人間関係、自分らしい生き方において、不足要因(あまりあてはまらない・全くあてはまらないが占める割合が高い)を特定しました。
 - ▶ 生活環境 ①娯楽施設、②飲食、③公共交通の移動、④医療機関、⑤買物
 - ▶ 地域の人間関係 ①若者が活躍しやすい、②見知らぬ他人も信頼
 - ▶ 自分らしい生き方 ①やりたい仕事、②収入機会、③挑戦・成長
- 46カテゴリーにおいて充足要因(非常に当てはまる・ある程度あてはまるが占める割合が高い)を特定しました。
 - ▶ 生活環境 ①空気や水がきれい、②身近に自然を感じられる、③騒音がない
 - ▶ 地域の人間関係 ①町内の人を手助け、②同じ町内の人を信頼
 - ▶ 自分らしい生き方 ①良い文化を残す、②精神的に健康

地域の暮らしやすさ点数

地域の暮らしやすさ24カテゴリー毎に「どちらでもない=0」と設定し、仮に全員が「非常に当てはまる=1」、「全くあてはまらない=-1」とした際の主観評価をグラフにしました。
 点数は、実際のそれぞれの解答数の合計を回答者数で除し、「不足=-1」、「ある程度不足=-0.5」、「どちらでもない=0」、「ある程度充足=+0.5」、「充足=+1」の点数をかけた和としました。



地域の暮らしやすさ点数の結果

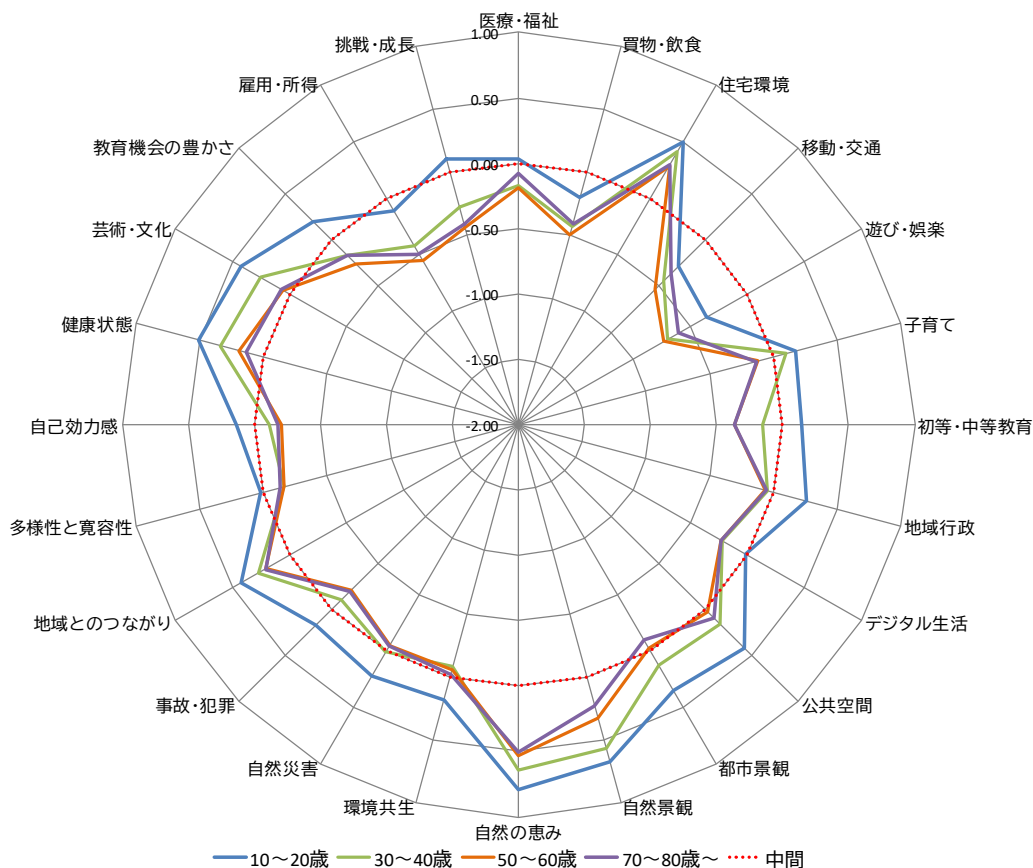
- 地域の暮らしやすさ指標24カテゴリーにおいて、マイナス値となっている要因と数値を特定しました。
 - ▶ 生活環境 遊び・娯楽-0.66、移動・交通-0.66、買物・飲食-0.44、初等・中等教育-0.32
 - ▶ 地域の人間関係 多様性と寛容性-0.14
 - ▶ 自分らしい生き方 雇用・所得-0.50、挑戦・成長-0.39
- 地域の暮らしやすさ指数24カテゴリーにおいて、プラス値となっている要因と数値を特定しました。
 - ▶ 生活環境 自然の恵み+0.54、自然景観+0.32、住宅環境+0.31
 - ▶ 地域の人間関係 地域とのつながり+0.22
 - ▶ 自分らしい生き方 健康状態+0.19
- 地域の暮らしやすさ指数24カテゴリーにおいて、ゼロ値に近い要因は充足不足のどちらでもないおおむね良好な要因ととらえられる。子育て-0.09、地域行政-0.05、公共空間+0.08、都市景観-0.02、環境共生-0.04、自然災害-0.03、芸術文化+0.10

年代別結果

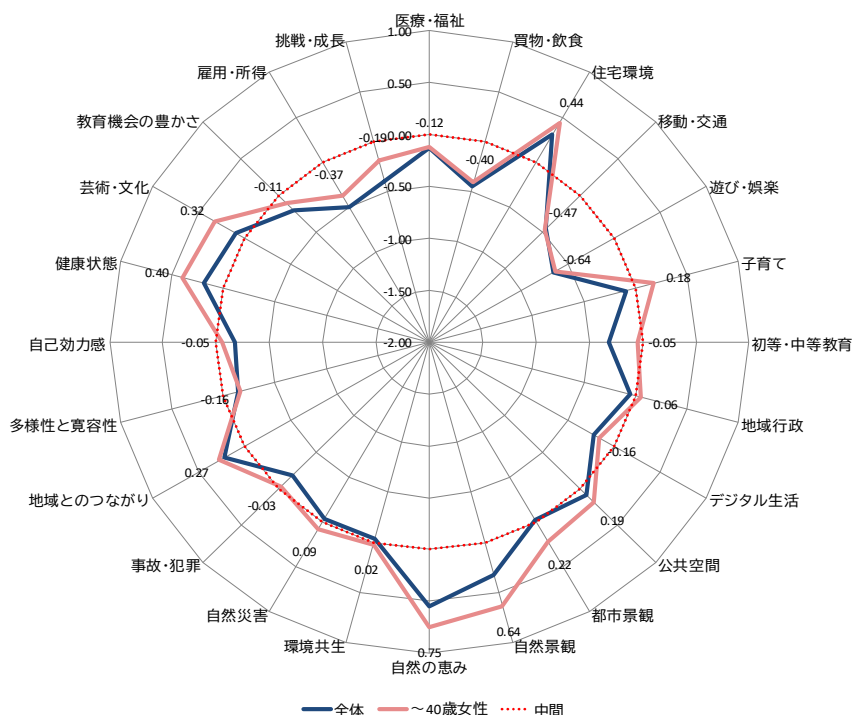
地域の暮らしやすさ24カテゴリーにおいて、20歳間刻みで得点を整理します。また、人口減少や地域の持続性を判断する40歳代以下の女性についても抽出し、暮らしやすさ点数を求めます。

暮らしやすさ点数は、回答者全員が「不足=-1」、「ある程度不足=-0.5」、「どちらでもない=0」、「ある程度充足=+0.5」、「充足=+1」とした際に、実際のそれぞれの解答数の合計を回答者数で除し、上記の点数をかけた和を得点としました。

(20歳間ごとの年代別結果)



40歳代以下の女性と全体結果の比較



年代別結果

- 生活環境の充足度では、36カテゴリーにおいて①娯楽施設、②飲食、③公共交通の移動、④医療機関、⑤買物の順で低い状況となっている。次いで教育環境(小中高校)や学校の通学しやすさについても、半数以上の方が不十分と認識している。町では、余暇活動(娯楽・飲食・買い物など)と、教育環境、医療の充実と、これら目的地への移動手段として公共交通の充実が課題となっている。
- 生活環境で充足度の高い因子、36カテゴリーにおいて①空気や水がきれい、②身近に自然を感じられる、③騒音がないこれらについては、引き続き町の自然環境や静かな生活環境を保全していくことが求められる。
- 地域の人間関係の充足度では、36カテゴリーにおいて①若者が活躍しやすい、②見知らぬ他人も信頼が低い状況となっている。町では、若者をはじめ町民が活躍しやすい環境を整えることが課題となっている。キャリア支援や起業支援、交流活性化、魅力発信、学びの機会など複合的に取り組むことが若者が主体的に活動できる環境につながる。
- 地域の人間関係でポジティブな要因は、36カテゴリーにおいて①町内の人を手助け、②同じ町内の人を信頼が上げられる。地域内の人々が互いに助け合い、信頼し合うことは持続可能で活力のある地域社会の基盤となります。良好なコミュニティ関係を活かし、共助の精神をさらに深める仕組みや、地域内でのつながりを強化する取り組みが重要である。
- 自分らしい生き方の充足度では、36カテゴリーにおいて①やりたい仕事、②収入機会、③挑戦・成長が低い状況となっている。暮らし続けられる地域に必要な”しごと”について問題が生じていることが分かった。人口ビジョンにおいても、20歳代～30歳代のUターンが起これら流出を招いている状況があることから、地元魅力的な仕事や自己実現の機会の創出が課題となっている。

- 自分らしい生き方でポジティブな要因は、36カテゴリーにおいて①良い文化を残す、②精神的に健康が上げられる。学校教育の特色ある教育活動による地域文化の理解と郷土愛の醸成が図られていることが確認できる。引き続きふるさと白川を思い続ける心の醸成が求められる。
- 年代別結果の表について、地域の暮らしやすさ24カテゴリーでそれぞれの年代の充足度から傾向や関連性を考察する。
- 年代間のギャップ(差)が大きいものは、挑戦・成長-0.38、教育機会の豊かさ-0.36、遊び・娯楽-0.34、雇用・所得-0.32で、それぞれ10～20歳代から30～40歳代の間で生じている。30歳代～40歳代が受ける便益や印象がその後の暮らしやすさに影響を及ぼしていると考えられる。
- 10歳代～20歳代と40歳以下女性のポジティブ要因とネガティブ要因について、関連性が認められる。例として、住宅環境、子育て、地域行政、公共空間、都市景観、自然景観、自然の恵み、環境共生、自然災害、地域とのつながり、芸術・文化が子育て世代と子供たちの暮らしやすさの要因とリンクしている。

調査結果のまとめ・考察

これらの調査結果まとめ・考察から白川町が持続可能な町であるためには、**40歳代以下の若者世代に対して**、地域の暮らしやすさカテゴリーのマイナス値の大きな要因に対して**何らかの対策を講じる必要がある**。**その世代が受ける便益や印象は、その後の世代に対しても良い影響を与え、結果暮らしやすい白川町の実現につながるものと考えられる。**

さらに、白川町の未来をつなぐ子供たちや若い世代と暮らしやすさの重点を共有する40歳以下女性の方についても、生き活きと成長し活躍の場を広げられ誰もが誇りを持てる白川町を目指して必要な対策を講じていく必要がある。



アンケートだけでは、計ることができない要因や講じていく対策の内容を明確にするため、直接、取材(インタビュー)をすることで、もう少し深堀りをしていきます。



グループインタビュー

白川町のどんなところに”暮らしやすさ”や”暮らしにくさ”を”感じているかを、5～6人程度のグループに取材をするもの。
この先、白川町を支えていただける若い世代を取材対象とする。

グループインタビュー

概要・目的

- 地域が持続可能になるための対策を、上記の評価結果まとめ・考察から特に子育て世代の意見を中心に聞き取る。
- まちの暮らしやすさアンケートの結果から、地域における満足度を高めるため特に重点的に進めるべき対策を調査する。
- 取材対象の方に集まってもらうのではなく、すでに集まっている場所へ出向き、取材を行う。

インタビュー(取材)先

- 1/25 赤とんぼスポーツ少年団保護者 7名
- 2/3 乳幼児学級参加者 10名
- 2/12 光の子保育園読み聞かせグループ5名、参加保護者
- 2/20 女性従業員の多い企業 従業員6名
- 3/4 乳幼児学級参加者 10名

インタビュー(取材)内容

- まちの暮らしやすさアンケートの結果を見ていただく
 - ▶ 子育て世代(10~40代)抽出分
- 生活環境・地域社会・自己実現の3つの分野で考える
 - ▶ 青色・緑色が多い又はオレンジが大半を占める要因は無問題
 - ▶ 赤色・紫色が多い(不充足な)要因を探し出してみる
 - ▶ 子育てや生活上に必要な優先度を考える
- 3つの分野でそれぞれ1つ以上、不充足な状態の原因と解消する対策を考える
 - ▶ 現状、現認・要因、解決策・対策、実現性・優先度について聞き取る
 - ▶ 出来るだけ解決策・対策について深掘りする

インタビュー(取材)結果

まち(生活環境)

余暇活動(娯楽・買物・飲食・公園など)



>> まちの娯楽は？と聞かれるとどんなことをイメージしますか？

- ・娯楽って町内で楽しめるってイメージがないよね。
- ・娯楽のイメージって、飲食や買い物やイベントや集まり、イオンとかを想像しちゃう。
- ・子どもたちにとっては、集まってワイワイするだけで娯楽だと思う。
- ・町内でも、楽集館や塾、友達の家とかで集まって交流するだけで十分かな。

>> 楽しく集まれる場所があれば、子どもにとって娯楽になる…なるほど！では、子どもたちは集まったり交流できていますか？

- ・できていないよね。移動手段が限られていて、親がいないと出かけられない。

>> 普段遊びに行っている場所を教えてください。

- ・公園は各務原や御嵩まで行っている。
- ・クオーレの遊具も遊んでいるが、大きくなったら物足りないかな。
- ・安心して子供を遊ばせる場所が欲しい。
- ・平日はふらっと子どもと散歩してるけど、近くに保育園があって気になってる。
- ・まだ入園していないから、入りづらいなと感じちゃう。
 - > だぶん保育園児も誰か知らないとお互い遠慮しちゃうよね。
 - > 同じように小学校の遊具は平日は特に遠慮して行きにくいと感じる。

・雨の日に遊ぶ場所が無いのが本当に困る。屋根付き施設とか解放してほしい。

>>ひとくくりに公園といっても、子どもの成長で好みが分かれると思うけど、
どんな公園・施設なら幅広い世代で遊べるとおもいますか？

- ・広い世代で遊べる子供も飽きないような場所が理想。
- ・運動器具型の遊具があったりすると大人も楽しめるよね。
 - > 絵本コーナーとかcafeが併設されていると長い時間過ごせるよね。
- ・休みの日で雨や天候の悪い時には、本当に行く場所が無くて困っている。

公共交通の移動



>>ドアツードア(玄関先)で送迎が可能な公共交通があるけどご存じでしたか？

- ・おでかけしらかわが、あまり知られていない。浸透していないと感じる。
- ・乗るのが恥ずかしいという声を聞いた。電話の予約や時間が限られているのが不便
- ・習い事やクラブ活動への送迎が大変なので、行き帰りのどちらかでも利用できると良い。
- ・近所に友達が住んでいない。自転車では遠いし危険なので、おでかけしらかわが身近になればいいな。
- ・目的地(娯楽)とつながっていれば利用しやすくなるよね。
- ・子供の成長につれて、自由な範囲が狭まってしまう。

>>おでかけしらかわで習い事や通学していて感じたことは？

- ・バスターミナルのような待ち合わせのできる場所が必要。
- ・おでかけしらかわのSNSをもっと活用してほしい。運行情報などを知りたい。
- ・とにかく送迎が大変！クラブ活動や習い事とか、往復で1時間かかると諦めてしまう。
- ・高校生がJR駅の前で車を待っている姿をみかける。

>>子どもだけでなく、公共交通のニーズで感じていることはありますか？

- ・家族で食事に出かけたくて、夫婦でお酒も楽しみたい公共交通を予約したかったけど、希望の時間の運行がかなわなかったのが諦めた。

子育てや教育の環境



>>子どもたちの同級生は何人ほしい？

- ・最低でもクラスで20人は欲しいかな。

>>同級生の数20人というのは何か理由がある？

- ・自分の時がそうだったし、同級生が多いとスポーツや合唱などクラスの活動が楽しかった。
- ・自分の子どもも同じ体験をしてもらいたい。

>>やっぱりご自身の経験値が大きいよね。

- ・自分は40人で4~5クラスあるような学校だった。結婚して白川町に越してきたけど、夫はいまだに地元の同級生と頻繁に遊んでいる。白川には地元愛があるってわかるし良いなって思う。

>>保育園や学校の帰りの時間で感じていることは？

- ・早下校や急なお迎えとかで、自分の仕事の時間が確保できない。
- ・学童やちょっとした間見てもらえる場所とかがあると助かる。

>>クラスや学級的环境でどういったことを重視する？

- ・私の地域は保育園年長が一人だけになってしまった。年齢関係なく上と下の世代で交流会とかできると友達や関りができるのに。
- ・教育の質がいくら良くても、最低限度の人数があると思う。
 - > 小学校の先生をやっていたけど、1クラス4人を受け持ったことがあって、男2人女2人だった。関係が良好ならいいけど、そうでなかったら6年、下手したら9年一緒というのはかわいそう。
 - > ひとクラス最低10人は欲しい！できたら20人いると心配ないかな。

医療・福祉



>> 子どもの病気や受診とかの状況を教えてください。

- ・近くに小児科がなくて、近くの医院では子ども用の調薬ができないと言われた。
- ・病院の情報は町内だけでなく近隣自治体も知れると便利かな。他自治体は広報紙の裏面に子育て情報が集約していて、必要な時に確認できて便利って聞いた。

ひと(地域の人間関係)

若者が活躍しやすい雰囲気



>> 若者が活躍しやすい”まち”には、何が必要でしょうか？

- ・チャレンジする人はするし、しない人はしないと思うけど、新しいことを仕掛けにくいなとは感じる。

>> どうしてそのように感じたのですか？

- ・保守的なのかな。目立つことをしたくないと思っちゃう。
- ・活躍している人を一部の人しか知らないの、情報が少ないと思う。

>> どんな情報があると良いですか？

- ・町内で誰が何をやっているか、イベントとか知れたらよい。
- ・あげます、譲ります、一緒に活動などニーズのマッチング機会があれば利用したいな。
- ・チャレンジしている人を知れたら、応援したくなると思う。

>> どうしたらチャレンジを後押しできる環境になるかな？

- ・私自身、やりたい気持ちはあるけど10年後とか、いつか実現したいな。
- ・調理場や資格、環境とかハードルはあるけど、大人が活動的なら子供もチャレンジしやすくなる。

若者や移住者向けの施策



>> 暮らしている地域(コミュニティ)で感じることは？

- ・人口が減っていく中で移住者や若者を増やしていくのは大賛成だけど、ずっと白川町に住んでいる人にも恩恵があってもいいのでは。
- ・歳をとっても白川町が住みやすいアピールがあれば、若い人も暮らし続けられると思う。

しごと(自分らしい生き方)

やりたい仕事・収入の機会



>> 町内にもたくさん働く場所があるけど、満足度の低い結果になる理由って？

- ・母親の意見だけど、子育てと仕事を両立したい。就業時間と子育ての時間の調整が大変なのであきらめている。
- ・美濃加茂や可児あたりでも募集あるけど、往復2時間の通勤はロスが大きい。
- ・子育て中は9時～15時が一番いい。その時間の求人があればニーズは高いと思う。

>> 子育てしながら働ける職場の決め手は何ですか？

- ・子育てに理解のある職場が一番！ママのコミュニティにもなるし、なんだかんだ安心。
- ・会社側も従業員さんとの信頼関係があれば、持ちつ持たれつお互いさまで融通がきく。
- ・よそのマチでは、子どもさんの看病で2週間お休みしたら、会社から解雇されたって・・・
- ・子どもが小さい頃は、病気や学校の急な休校などで、その日に休みが必要になることもあるから本当に助かります。

>> 子育てママの仕事環境に必要なことは何でしょうか？

- ・乳児の育児でも、お昼寝の時間とかにスキマ時間ができる。オンラインや内職などで稼いで少しでも家計にプラスになればうれしい。
- ・要資格の求人もあるので、その職種に興味があればキャリアアップも挑戦したい。

>> 収入についてどう思いますか？

- ・最低賃金が上がったけど、それでも安い。
- ・転職を考えたときに、給与のいいマチの会社と、地元の企業を比べて、迷ったけど地元の企業を選んだ。

>> 地元の企業にされた決め手はなんですか？

・同級生から誘われたことが一番の決め手。

>> 求人の情報や仕事の選択肢をどうやって入手しますか？

・ハローワークの白川町内の求人が多いことを知らなかった。
・求人が20代～40歳代なので、その年代層が集まる場所で知れるといい。

>> 子育て卒業が近い方に聞きますが、子どもの就職先のことは？

・子どもの就職先は、友達や知り合いの多いマチが多い感じかな。
・保育士を目指しているけど、重労働で給与水準も低くて親ながら心配している。

グループインタビューのまとめ・考察

”ネガティブな情報力は強い。ポジティブな情報量が少ない”

>>> 行政からの情報発信が弱く、前向きな情報が届けられていない。

”地域公共交通(おでかけしらかわ)は、すべての世代が活用できる仕組み”

>>> でかける目的と繋がらなければ、浸透しない。

”行政単体ではなく、関係団体や関係者との連携を強化して、面で支援”

>>> 点を線で結び面による支援を行うことで、施策がより見える化し、一体感を生む



※女性従業員の多い企業



※乳幼児学級

第2章 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価

第5節 将来像(あるべき姿)

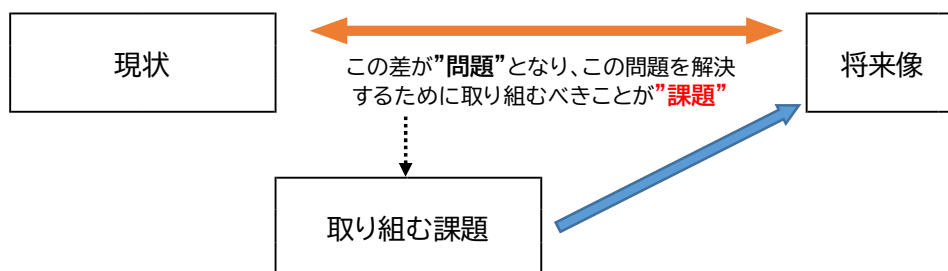
将来像

「活力」をカタチに みんなの思いが
活きる つながる 広がるまち

- このまちを訪れる多くの人たちが、魅力を感じ、住んでいる人たちが住み続けたいと思うまちをつくること
- 人、地域、地域資源が持つ「活力」を、色々なカタチにして、まちづくりに活かし、これからの白川町を担う次世代のために、直面する厳しい状況に力を合わせて立ち向かい、住み続けたいと思える白川町をつくること

— 白川町第6次総合計画 —

第6節 問題点と課題



1 問題点

1. 仕事やなりわいに関する問題点

①地域資源を活かした産業振興の停滞

- ・アンケート調査やグループインタビューにおいても、雇用・所得に関する満足度が低い。
- ・好意的に捉えられている「自然の恵み」や「自然景観」を活かしきれていない。
- ・まちの強み「森林資源」「有機農業」「地域特産」の魅力を伝えきれていない。

②地場産業の低迷により就業や雇用環境の改善が進まない

- ・希望の仕事が見つからない。新しい仕事のチャレンジに踏み切れない。
- ・地域の産業や他のチャレンジ、活躍人材などの情報が不足している。知る機会がない。

2. 暮らしていくための生活環境と安全面の問題点

①子育て世代に選ばれる生活環境とのギャップ

- ・子育てに必要な施設やサービス、情報などの連携が取れていないので、不便を感じている。
- ・子育てと仕事と自分らしい生き方が両立できるワークライフバランスが進まない。

②いつまでも愛着ある地域で暮らし続けるには

- ・身体と精神の健康を保ち、地域とのつながりを活かした相互扶助。
- ・さらなる医療・福祉の充実と移動の希望を叶える生活基盤の整備が必要。

③充足度の低い生活環境要因の改善が求められる。安心・安全の対策も継続

- ・余暇活動や日々の生活に必要な”目的地”とつなぐ移動手段が浸透していない。
- ・活動主体や事業者との連携が図られていないため利用者から不便を感じている。
- ・防犯や防災・減災など長期的な目線で着実な積み重ねが必要。

3. 持続可能な地域社会の実現に向けた問題点

①次世代のまちづくりの担い手となるふるさと教育・キャリア教育の必要性

- ・ふるさとの人、自然、産業、伝統、文化の体験が地域課題解決への意欲に。
- ・児童生徒数の減少、通学や活動の変化、学力のギャップなど直面する状況への対応。
- ・学校の整備に合わせた周辺関連施策との調整、通学負担の増加。

②ふるさと白川でチャレンジしたくなる資本、資源、体制、情報が確立されていない

- ・ふるさと教育や地域学習で根付いた郷土とのつながりが途絶えてしまっている。
- ・高校や大学、社会人とキャリアを積み重ねていくうえでまちとの関係性が持続できない。
- ・企業や先駆者、産業や地域課題など情報やキーマン等との交流機会がない。

③若者が挑戦したくなる、活躍できる雰囲気になっていない

- ・行政との対話の機会が少なくヒアリングやインタビューなど手段のモデルチェンジが必要。
- ・活躍人材や先駆的事例、支援策、ニーズなど情報が行き届かず意識醸成が進まない。
- ・白川町や地域の現状を憂う人材のチャレンジを後押しする仕組みが備わっていない。

④魅力・活力の情報発信が不十分で地域経済や人材交流の活性化に繋がっていない

- ・移住やUターンのための多様性と寛容性の備わった地域社会の成熟が必要。
- ・地域社会の維持に住民の負担が重く、地域の持続可能性が心配される。
- ・集落の環境資源(空き家・景観・人間関係等)の有効的な活用がされていない。
- ・あらゆる情報発信媒体とターゲットとコンテンツのマネジメントが不十分。
- ・商工会、観光協会、移住交流サポートセンター、白川ワークドット等連携不十分。

2 課題

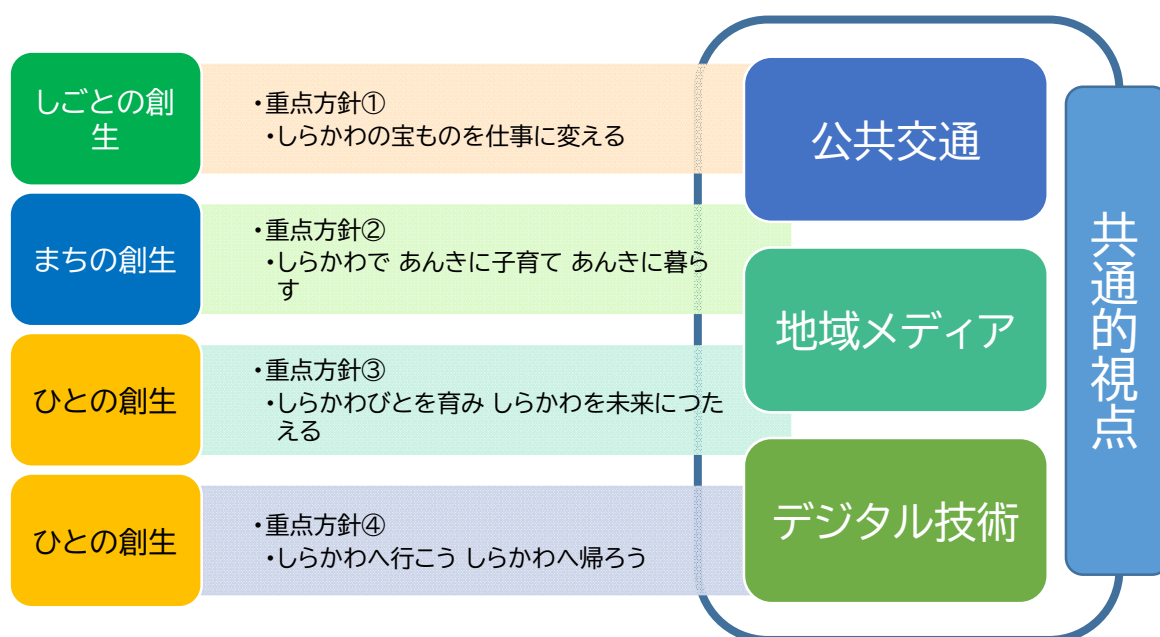
1. 仕事やなりわいの創出
○ 地域資源を活用した産業振興を図り、自然や資源の価値を最大限に活かした商品やサービスを創出 ○ 若者の定住を促すため、就業環境整備や起業支援の強化を行い、地域内での経済活動を活発化 ○ 多様な人々が地域に関与し、地域活性化に取り組む仕組みを構築
2. 暮らしていくための生活環境と安全面
○ 育児と仕事の両立、ワークライフバランスなど柔軟な働き方の推進 ○ 地域全体で高齢者と子育てをサポートできる体制の持続化 ○ 生活環境の利便性と安心・安全を確保するための持続的な対策の推進
3. 持続可能な地域社会の実現
○ 将来の地域の担い手となる小中高校生に対する地域教育 ○ 大人から子どもまで住民一人ひとりが、地域の課題を「自分ごと」と捉え、「自分たちの白川は自分たちで守る」という意識の醸成 ○ 町内で学び、働き、生活できる環境づくりを進め、地元企業の支援や新たな雇用機会の創出 ○ 地域の魅力を伝える情報発信にあらゆる分野で取り組み、若い世代の移住促進

第3章 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略

第1節 重点方針

----- 重点方針は継続 -----

第1章で述べたとおり、本戦略は、総合計画の基本施策のうち”まち・ひと・しごと創生”に重点を置いた方針を策定するものであり、総合計画期間中であることから第3期総合戦略においても重点方針は継続していきますが、前章で述べた課題に取り組むため、重点方針に沿った事業施策の展開を図っていきます。



まち(生活環境)・ひと(地域の人間関係)・しごと(自分らしい生き方)の創生のため、**公共交通、地域メディア、デジタル技術の3つの視点を複合的に活用しまちづくりに活かします。**

まず、公共交通の浸透により、余暇活動や日々の生活に必要な目的地への移動の心配を取り除くとともに、教育機会の確保や観光活用を促進し、地域内外の交流を活発化させます。

次に、地域メディアによる情報発信を強化し、産業振興やなりわい創出、生活基盤の情報を知るツールとして活用することで、まちの活力を高め、地域で活躍する人材や新たなチャレンジを後押しします。

さらに、デジタル技術の活用によって、すべての施策の合理化や効率化を図り、利便性を向上させるとともに、誰一人取り残されることのない仕組みを構築し、地域全体でその恩恵を享受できる環境を整えます。

これらの共通視点によって地域の持続的な発展を支え、誰もが安心して暮らし自分らしい生き方を実現できるまちづくりを進めていきます。

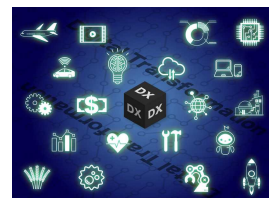
地域公共交通「おでかけしらかわ」



地域メディア「ヤゴーシラカワ」



デジタル技術の活用(DX戦略)



重点方針① しらかわの宝ものをしごとに変える

しごと の創生

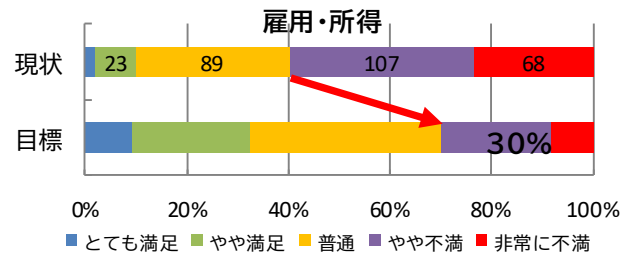
視点

「しごとをつく」

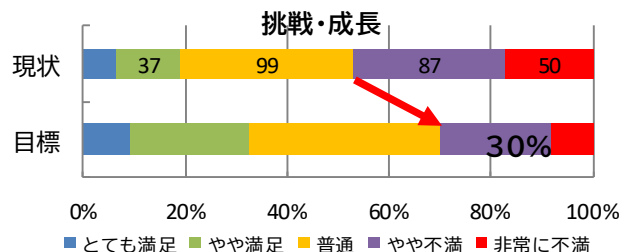
- 農林業を軸とした6次産業の創出・育成
- 町民が町内で就職できる環境と、魅力ある職場づくり

KPI(アウトカム)

成果指標 地域の暮らしやすさ
「雇用・所得」(やりたい仕事)
現状値 不足とする意見67%
目標値 不足とする意見30%以下
根拠 アンケート結果(40歳代以下女性)



成果指標 地域の暮らしやすさ
「挑戦・成長」
現状値 不足とする意見47%
目標値 不足とする意見30%以下
根拠 アンケート結果(40歳代以下女性)



施策①：地域資源を活用した産業振興

地域資源の付加価値化と6次産業化の推進

本町の豊かな自然と地域資源を最大限に活かし、持続可能な産業振興を推進します。

まず、農林業の6次産業化を促進し、農産物や木材の生産だけでなく、加工・販売・観光などを組み合わせたビジネスモデルにより、農畜産加工品のブランド力を高め、町の特産品としての価値向上を図り販路拡大に繋げる仕組みを構築します。

エコロジカルな里山経済循環

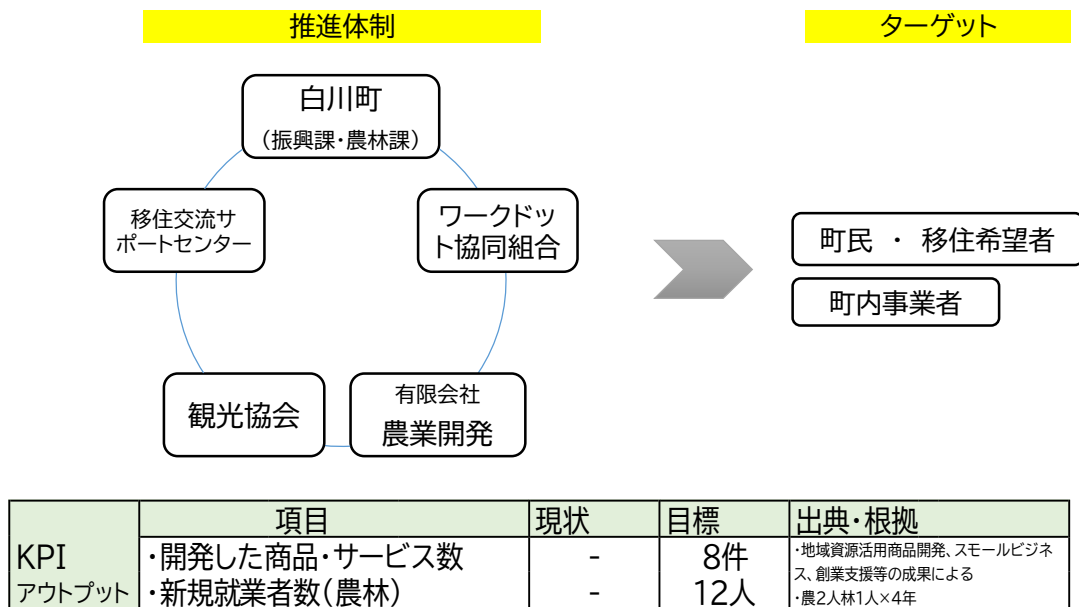
また、環境に配慮した有機農業の推進により、安全で高付加価値の農産物を生産するとともに、さらなる価値向上を支援します。地産地消の推進やエコツーリズムとの連携を強化し、地域内外からの経済力強化を目指します。

さらに、里山の魅力を活かしたアクティビティの開発など地域資源と農業体験などのコンテンツを充実させることで、観光振興と地域経済の活性化を図ります。

これらの取り組みを通じて、地域資源の持続的な活用と新たな産業創出を実現し、本町ならではの魅力ある産業基盤を築いていきます。

農林業の担い手育成

若者や移住者を対象とした就農・就林業支援策を展開し、研修プログラムや技術指導の提供、農地の集積、定住支援金の支給などを実施する。また、農林業の魅力を発信し、農林業の担い手を増やす取り組みや、高齢化の進む地域での後継者育成にも注力していきます。地域全体で支援体制を整え、持続可能な産業を目指していきます。



施策②：就業と雇用環境の充実

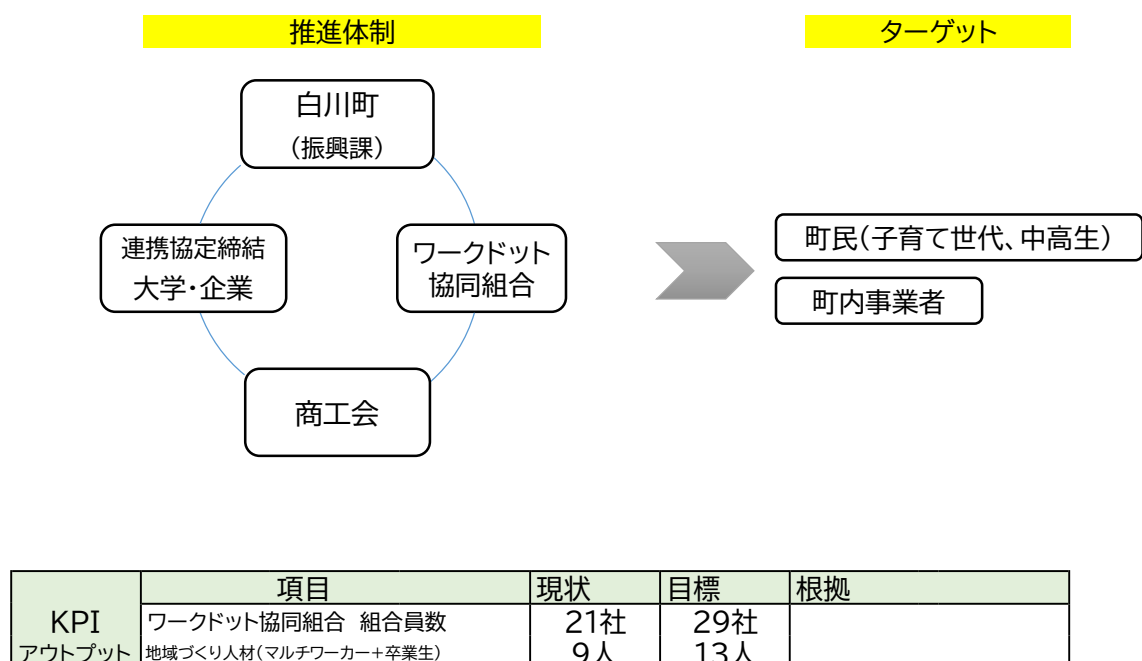
仕事と生活のバランスを保ちながら、個人の職業人生の成長を支援

地域産業の活性化と担い手不足に対応するため、農林業や建築・建設業等への就業支援を推進し、魅力ある職場環境の整備や技術習得のサポートを行います。さらに地域の繋がりを活かしたソーシャルビジネスの育成を支援し、地域課題の解決と雇用創出を両立させる仕組みを構築します。

また、多様な働き方を支援し、誰もが活躍できる就業環境の整備を進めます。特に子育て世代のワークライフバランスを保ちながら新たな仕事にチャレンジできる機会の創出などキャリアアップを支援します。加えて、都会で暮らす豊かさとは異なる、本町ならではの魅力ある暮らしを実感できる取り組みを推進します。

若者のUターン環境共創(ミライ共創プロジェクト)

自然豊かな環境で働くことの価値、地域コミュニティの温かさ、子どもがのびのび育つ安心感など、“白川町だからこそ実現できる暮らしの豊かさ”を大切にしながら仕事と生活の調和を図れる環境を整えていきます。



視点

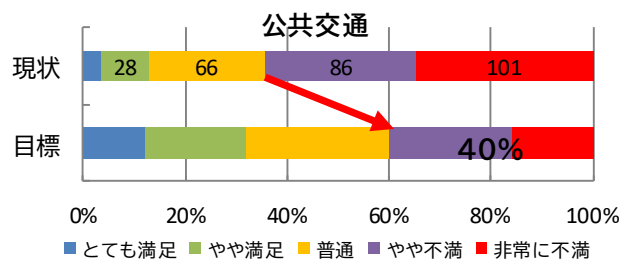
「暮らしやすさ」



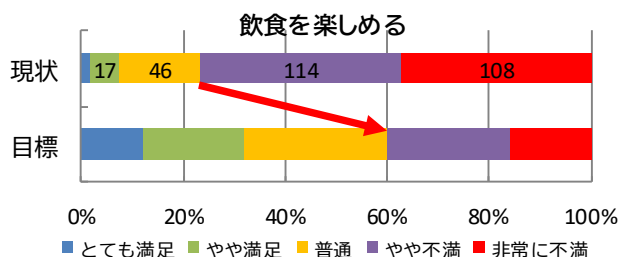
- 全ての世代が住みやすいまち
- 外から見ても、暮らしやすさが実感できるまち

KPI(アウトカム)

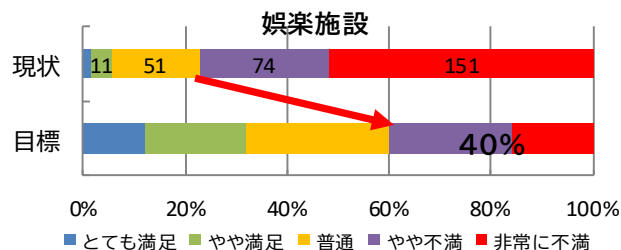
成果指標 地域の暮らしやすさ
移動・交通
現状値 不足意見 64%
目標値 不足意見 40%以下
根拠 アンケート結果(40歳代以下女性)



成果指標 地域の暮らしやすさ
飲食を楽しめる
現状値 不足意見 76%
目標値 不足意見 40%以下
根拠 アンケート結果(40歳代以下女性)



成果指標 地域の暮らしやすさ
娯楽施設
現状値 不足意見 77%
目標値 不足意見 40%以下
根拠 アンケート結果(40歳代以下女性)



施策①：安心して子育てができる支援体制の強化と環境整備

子育て支援体制の強化と情報発信

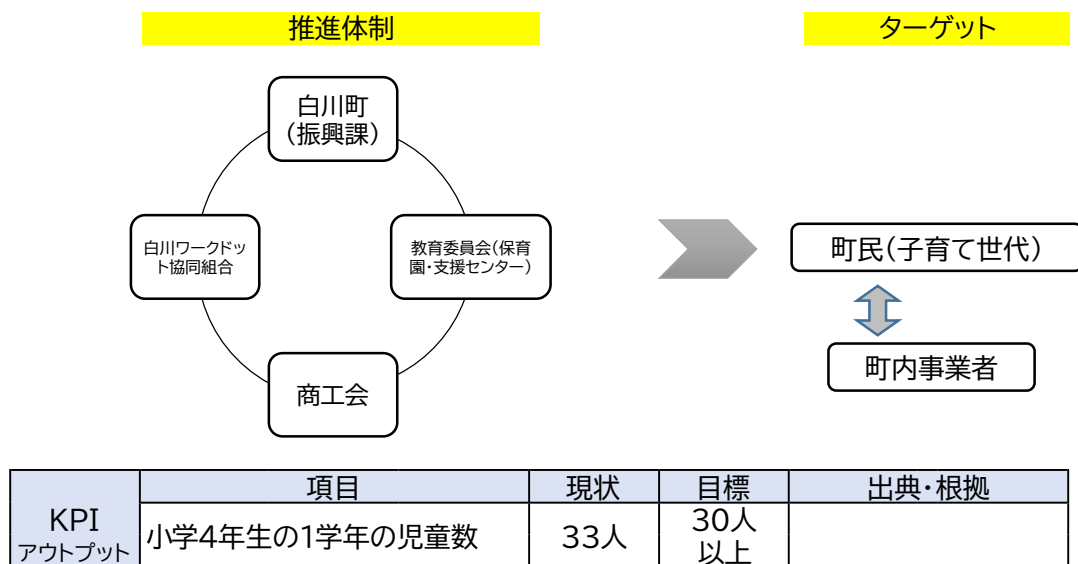
子育てに必要な施設やサービス、支援制度などが十分に活用できるよう、関係者・団体等と連携しながら情報発信を強化します。特に子育てに有用な情報や楽しさワクワクが伝わるコンテンツ開発を行い、必要とする方に効果的に伝わる方法でPRします。

子育て中でも働きやすい環境整備

子育てと仕事、さらには自分らしい挑戦ができる環境を整え、ワークライフバランスの実現を目指します。柔軟な働き方を選べる仕組みや、地域ぐるみで子育てを支える体制を強化し、親が安心して子育てと仕事に取り組める環境を整備します。

未就学児でも安心して遊べる空間整備

未就学児の遊び場などハード面の整備に加え、地域の交流を深めるイベントや子育てコミュニティの活性化を促進します。



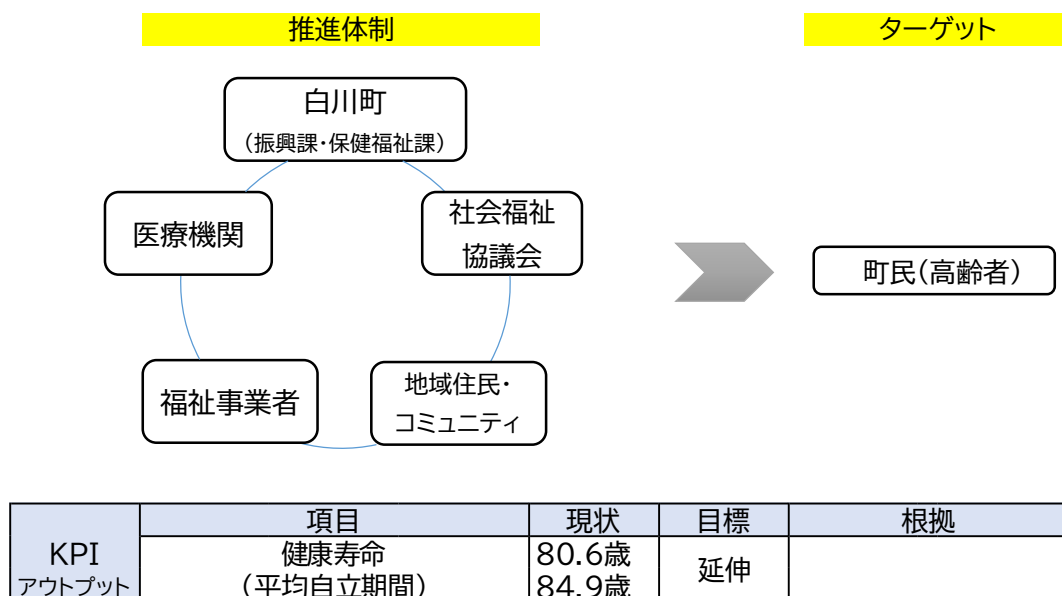
施策②：健康で長寿なまちの実現

共助共生のぬくもりある高齢者福祉の充実

お互いさまで支え合い、心豊かに暮らせる地域社会の実現に向け、健康づくりと地域のつながり強化、医療・福祉・移動の充実など生活基盤の整備を推進します。

運動や食生活の改善、予防医療の充実を図るとともに、住民が集い交流できる場を提供し、孤立を防ぎながら心身の健康維持を支援します。また、世代を超えた繋がりを深め、地域全体で支え合う環境を整えます。

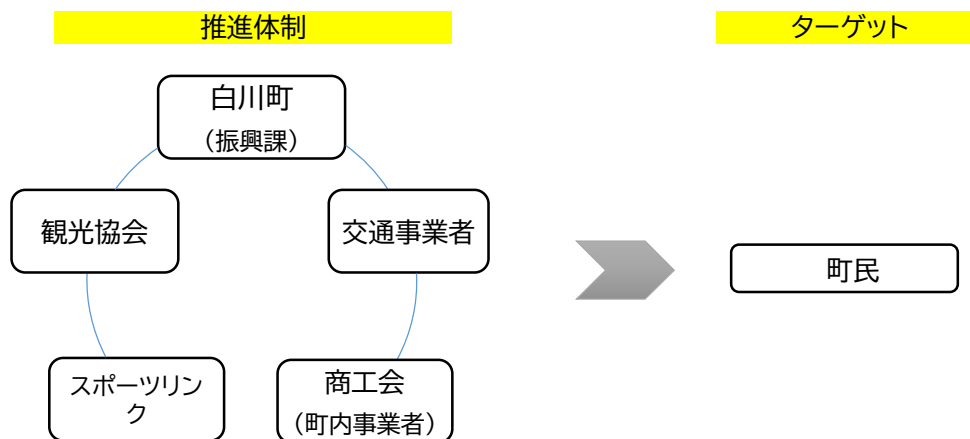
さらに、医療・福祉サービスを充実させるとともに、オンライン診療や薬の配達といった仕組みの検討や移動手段の確保による生活線の充実を図り、誰もが安心して暮らせる環境を整備します。



施策③：安心を感じられる物理的な基盤づくり

おでかけしたくなるしかけづくり

余暇活動や日々の生活に必要な目的地へのアクセスを確保するため、移動手段「おでかけしらかわ」の浸透を目指し、利便性の向上と利用促進に取り組みます。次に、買物・飲食・娯楽といった地域の既存資源を活性化し、相互連携を強化することで、地域経済の活性化と住民の暮らしの充実を図ります。



KPI アウトプット	項目	現状	目標	根拠
	公共交通年間利用者数	53,123 人	56,000 人	



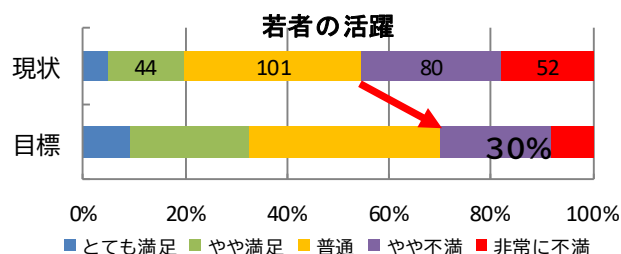
まちづくりの基盤

視点
「ひとを育てる」

- 公教育と私教育の役割を整理し、強みを活かした相互補完
- 白川の暮らしに豊かさを感じ、伝えていけるひとづくり

KPI(アウトカム)

成果指標 地域の暮らしやすさ
若者が活躍しやすい
現状値 不足意見45%
目標値 不足意見30%以下
根拠 アンケート結果(40歳代以下女性)



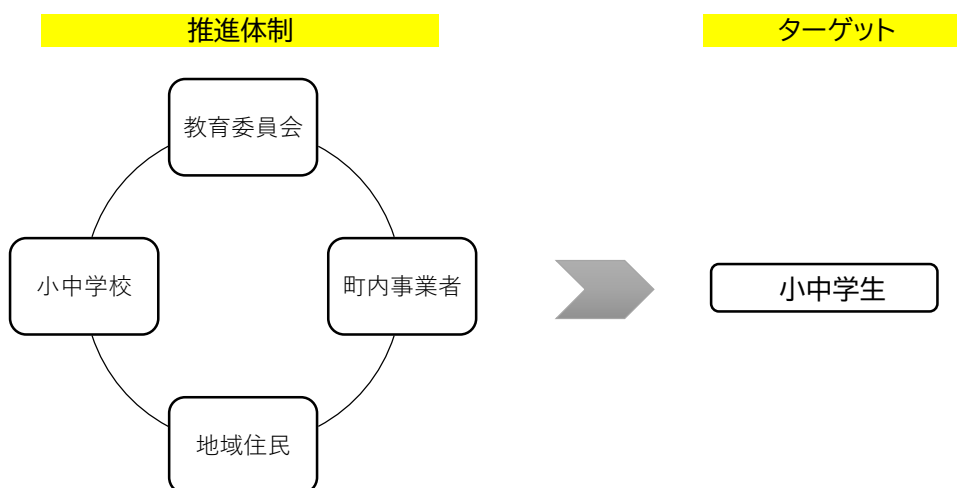
施策①:公教育(学校教育)の充実

公教育(学校教育)の充実

未来を担う子供たちがふるさと白川への愛着と誇りを持ち、地域の魅力を学びながら成長できる教育環境の充実を図ります。

そのために、地域の活躍人材や自然・産業・伝統・文化に触れる体験学習を推進し、地域課題の解決に向けた意欲を育む「地域教育」を推進します。これにより、子どもたちが地域とのつながりを深め、白川で学び暮らし続けたいと思える環境を整えます。

子どもたちが白川で学ぶことに誇りを持ち、将来にわたって地域とかかわりを持ち続ける人材を育成していきます。



KPI	項目	現状	目標	根拠
アウトプット	「ふるさと白川」の良さの認識	-	70%/年	アンケート調査 小5～中3と保護者対象
	「ふるさと白川」の課題の認識	-	60%/年	
	課題解決(持続可能な社会の実現)の意欲	-	50%/年	

施策②:私教育(探求型)の充実

若者のUターン環境共創事業(ミライ共創プロジェクト)

地域の未来を担う人材を育成し、活躍の場を広げることで、持続可能な地域づくりを進めます。

白川町を卒業した高校生が地域と関わり続ける仕組みを作り、地域課題の解決と持続可能なまちづくりを目的としたミライ共創プロジェクトを実施します。町内企業や産官学連携によりビジネスや情報発信、イベント企画等を通じて若者が主体的に地域とか関われる場を提供します。白川町が「いつでも帰ってこれる場所」となり、将来的なUターンや定住促進、地域の活性化へとつなげていきます。

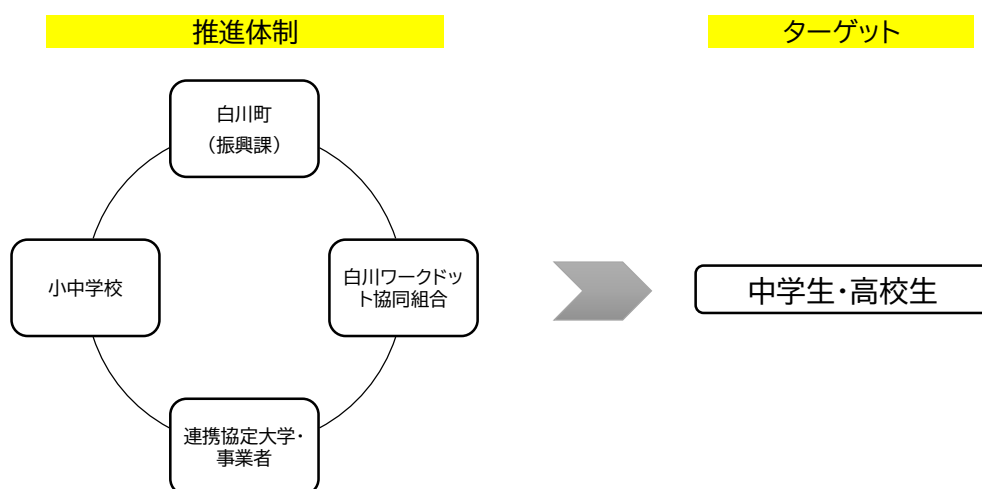
域学連携による人材育成と学べる環境づくり

中学卒業後も地域の魅力や課題に関心を持ち続けられるよう、地域産業や文化、社会課題の探求学習による持続的な学びの環境を整えます。

地元企業や地域で活躍する人材と連携し、町の産業の魅力について探求する学習機会を提供し、都市部の大学と連携することでより広い視野で地域を捉える力を養います。生徒たちが自ら地域課題を発見し、解決策を考える力を身に着けます。

子どもたちが「生きる力」を身につけることを目標とし、学びを通じた自己成長の機会を提供します。そのため、地元企業や活躍する大人たちも共に学ぶ姿勢を示し、学び続けることの重要性を子供たちに伝えます。

さらに、持続的な学びの環境づくりとして、憩いの場や楽集館、校外学習の場などを活用し、地域の人々が自由に学び、交流できる場を整備します。



	項目	現状	目標	根拠
KPI アウトプット	まちづくり活動に参加する中学生	-	20人	参加者の累計
	まちづくり活動に参加する高校生	-	20人	

施策③:地域を支える担い手の育成

人材循環型モデルの創出

地域づくりに関わる人材が町内の事業者や地域コミュニティと交流し、継続的に循環することで、新たな挑戦を生み出す環境を整えます。地域づくりに携わる人材が町内の事業者や住民と積極的に関わることで地域内に人的ネットワークが広がり、新たなアイデアやプロジェクトが生まれる土壌を形成します。交流の中で地域に住む人々のチャレンジ精神が刺激され、前向きな町民の育成を図ります。

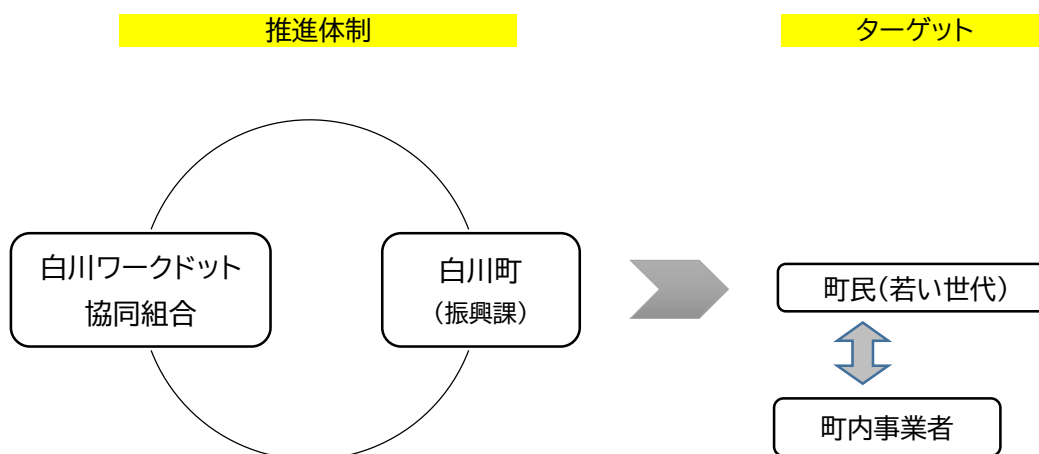
また、人材の循環と共に、情報やスキル、意識なども共有されることで、地域全体の知識や経験が蓄積され、次世代へと受け継がれていきます。これにより地域課題の解決や新たな事業創出に繋がります。

地域づくり人材の育成支援

地域の維持・活性化に主体的に取り組む地域づくり人材の育成を支援し、地域全体の活力向上を目指します。

町民がグループ単位でまちの活性化や地域課題の解決に向けて継続的に取り組む活動を支援することで、活動的で前向きな町民を増やすことを目指します。

また地域内でマルチワークや複業という新たな働き方やなりわい、雇用の創出を支援します。地域づくりに関わる人材が経済的な基盤を持ちながら活動が続けられるようになり、持続可能な形での人材育成に繋がります。



	項目	現状	目標	根拠
KPI アウトプット	地域づくり人材の数	9人	13人	マルチワーカー + 卒業者

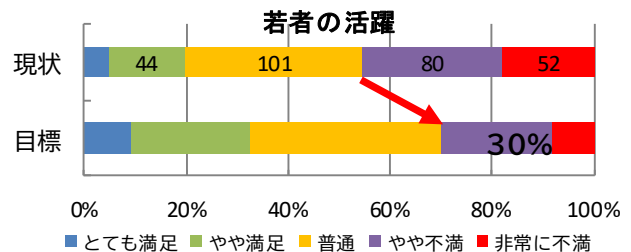


視点
「魅力を高める」

- 子育て世代を意識した複数の側面から移住支援
- 白川ならではの魅力に特化した観光振興

KPI(アウトカム)

成果指標 地域の暮らしやすさ
若者が活躍しやすい
現状値 不足意見45%
目標値 不足意見30%以下
根拠 アンケート結果(40歳代以下女性)



施策①：移住やUターンの促進

地域コミュニティ機能の整理・強化

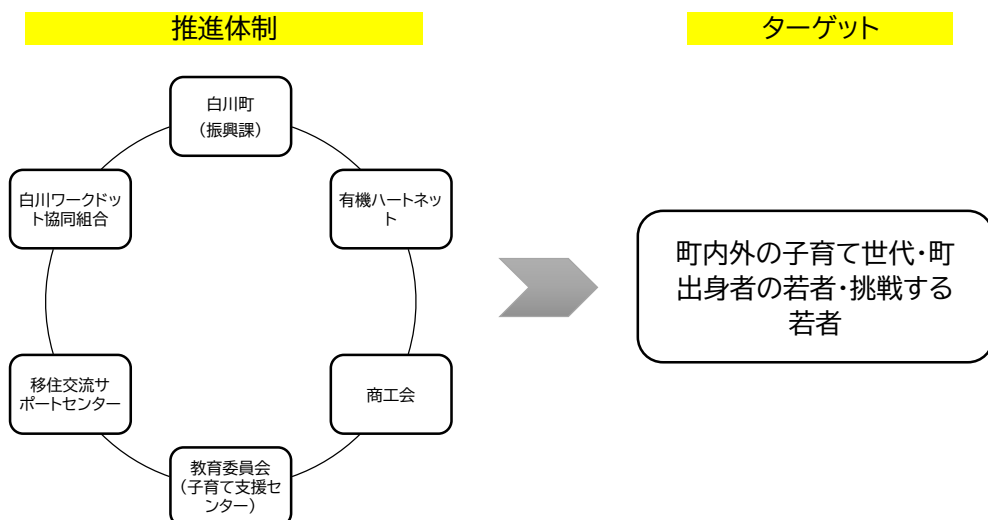
移住やUターンを促進し、地域の活力を維持・向上させるために、ふるさととつながる人口の増加や、多様性と寛容性を備えた地域社会の成熟を目指します。

地域の持続的な発展には、地域住民の負担を軽減しながら、地域社会を維持する仕組みが必要です。そのため空き家、里山景観、地域の産業、人間関係といった集落資源を活用し、受け入れる側の包容性を高めることであらたな住民を迎え入れやすい環境を整備します。

子育て世代を対象とした移住定住推進

また、白川町ならではの里山の暮らしや自然環境、そこに暮らす人々の魅力を積極的に発信する地域メディアを活用し、子育て世代や若者が「ここに暮らしたい」「ここで暮らし続けたい」と思えるようPRを強化します。

町の暮らしやすさや魅力を向上させ磨き上げるには、仕事、住宅、地域コミュニティ、子育て、教育といった複合的に支援を展開し、情報共有や相互支援が必要です。町が中心となって推進体制を構築し、面的な受け入れ体制、チャレンジ環境を整えます。



	項目	現状	目標	根拠
KPI アウトプット	中学生以下の子育て移住世帯数	-	5世帯/年	移住交流サポートセンター実績

施策②：白川の魅力が体験できる観光振興

リトリート観光・魅力向上タウンプロモーション

名古屋都市部から比較的近い立地を活かし、心身をリフレッシュさせる「リトリート観光」を推進し、これまで推進してきたグリーンツーリズム活動に加え、白川ならではの魅力を体験できる観光振興を進めます。

観光の活性化には、適切なターゲットに向けたコンテンツの発信と、あらゆる情報発信媒体を活用した戦略的なマネジメントが不可欠です。地域メディアを活用して地域内の事業者とコンテンツ開発を行うとともに情報発信の強化を図り、白川の自然・文化・暮らしの魅力を国内外に発信します。

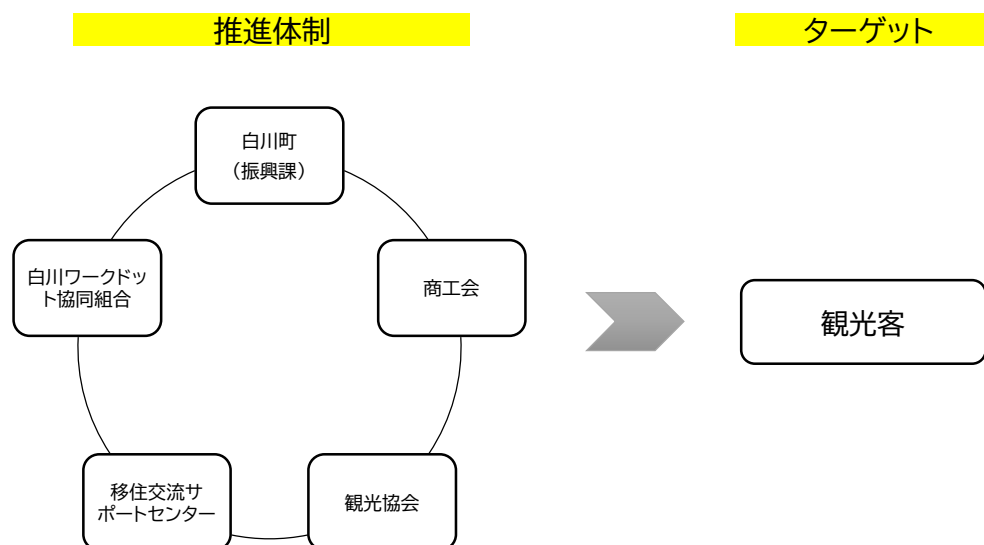
地域メディアによる情報発信

白川町の魅力を効果的に発信し、観光振興を促進するため地域メディアを積極的に活用した情報発信を強化します。short動画の制作、SNS発信、記事制作、PR活動を展開し、町外の方、来訪者、観光客、行動的な人達をターゲットに認知拡大を図ります。

白川町ならではの魅力、自然や文化、活動的な人物を視覚的に伝え、町の歴史や特産品、観光体験などを深掘りし興味あるストーリー性のあるコンテンツを提供します。

多様なステークホルダーとの連携強化

白川ワークドット協同組合が中心となり、商工会・観光協会・移住交流サポートセンターなどの関係機関が複合的に連携し、それぞれの強みを生かした取り組みを進めることで、観光振興と地域経済・人流交流の活性化に繋がります。



	項目	現状	目標	根拠
KPI アウトプット	地域通貨Shiraca 町外者カード登録者数	-	1000人	3,800人(飛騨市)/2.47万人

1. 戦略の推進体制

本戦略の推進にあたっては、社会環境の変化や多様化するニーズに対応し、計画期間内でいち早く最大限の効果を得るために、産官学連携や広域連携、住民との協働など多様なステークホルダーと連携し主体的に実施する。まち・ひと・しごとの好循環をもたらし、ウェルビーイングな暮らしを実現することで、若い世代が白川町で暮らしたい暮らし続けたいと思える持続可能なまちの実現に向け推進体制を構築します。

①産官学連携

行政と民間事業者、教育機関や大学等と連携しそれぞれの強みを活かした取り組みを推進します。地域資源や産業を活かした事業創出や地域課題解決、デジタル技術の活用等により産業振興を進め雇用機会の拡大や経済活性化を図る。また、高校や大学等と協力し、地元の若者と課題解決に取り組み最先端の知見や技術を地元産業へ還元する仕組みを構築します。

②広域連携

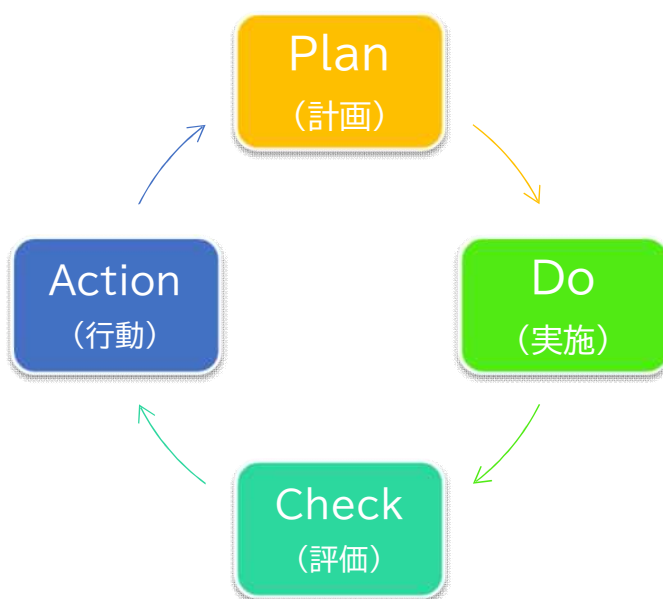
みのかも定住自立圏や広域行政連携の仕組みにより、圏域内での生活機能の充実や、医療・福祉・教育・交通など基盤整備を進めることで住民が安心して暮らせる環境整備の体制を構築する。

③住民との協働

地域の主体である住民が積極的にに関わり、ワークショップや地域交流や、自治会やNPOの活動など地域コミュニティの活性化を図ることで、まちづくりを共に進めるための推進体制を構築します。

2. 進捗管理

本戦略は、社会経済情勢の変化に柔軟に内応するため、毎年度PDCAサイクルによる評価・検証を行い、必要に応じて戦略の見直しを行うものとします。



第4章 資料編

第3期白川町まち・ひと・しごと創生総合重点方針と第6次白川町総合計画実施計画との関連

番号	項目	施策(重点方針)	課	事業名(実施計画)	内容
43	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	農業委員会活動事業	農地法に基づく農業委員会を運営する事業
44	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	農業振興事務費	農業振興に係る事務を行う事業
47	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	農業施設維持管理事業	農業施設の維持管理に関する事業
48	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	日本型直接支払事業	集落等による地域共同活動により農地を維持し、豊かな農村風景を守る事業
49	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	農業再生協議会費	経営所得安定対策事業を推進する事業
50	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	鳥獣害対策事業	鳥獣による農作物への被害を防止する事業
51	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	畜産振興対策事業	畜産農家の経営安定と疾病対策を図る事業
52	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	町有林管理事業	森林経営計画に基づき町有林の管理と整備を行う事業
53	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	土地改良事業	農業生産基盤の整備と保全を図る事業
54	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	森林整備促進事業	森林整備の促進を図る事業
55	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	産直住宅促進事業	産直住宅建築による町産木材の利用促進を図る事業
56	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	林業施設管理事業	林業施設の維持管理と整備、林業関係団体に対する機械導入等の支援を行う事業
58	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	森林資源活用事業	森林や森林で発生した木材の活用促進を図る事業
59	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	林道整備事業	林道の開設・改良及び維持管理を行う事業
60	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	茶業振興対策事業	白川茶の生産振興及び販売を促進する事業
61	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	里山林整備事業	道路・集落に隣接した森林の整備及び整備の支援を行う事業
62	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	農林課	集落環境保全事業	治山事業と一体的な整備を行う事業
23	しごとの創生	地域資源を活用した産業振興	振興課	ふるさと納税推進事業	ふるさと納税制度を活用したまちの魅力アップ及び応援人口の創出・拡大を図る事業
15	しごとの創生	就業と雇用環境の充実	振興課	商工振興事務費	商工振興に関する事業
16	しごとの創生	就業と雇用環境の充実	振興課	地域振興券交付事業(特別会計)	地域振興券の交付に関する事業
17	しごとの創生	就業と雇用環境の充実	振興課	なりわいづくり創出事業	本町の特性を活かしたワークライフバランスを実現する事業
18	しごとの創生	就業と雇用環境の充実	振興課	労働力確保対策事業	労働力確保等に関する事業
45	しごとの創生	就業と雇用環境の充実	農林課	農業組織育成事業	農業組織育成事業
46	しごとの創生	就業と雇用環境の充実	農林課	新規就農者育成事業	新規就農者の確保と育成に取り組む事業
57	しごとの創生	就業と雇用環境の充実	農林課	林業担い手育成事業	林業などの木材関連事業に従事する担い手育成に対する支援を行う事業
27	まちの創生	安心して子育てができる支援体制の強化と環境整備	町民課	児童手当事業	児童を育てる保護者に対して支給する手当
28	まちの創生	安心して子育てができる支援体制の強化と環境整備	町民課	子育て応援給付事業	出産及び育児環境の向上と子育て世帯の定住を促す事業
30	まちの創生	安心して子育てができる支援体制の強化と環境整備	保健福祉課	母子保健事業	妊娠・出産をスタートに、多職種との連携の中で、子供のすこやかな育ちを支援するための事業
73	まちの創生	安心して子育てができる支援体制の強化と環境整備	教育課	子育て支援センター運営事業	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業
74	まちの創生	安心して子育てができる支援体制の強化と環境整備	教育課	放課後児童クラブ運営事業	保護者が就業等により昼間家庭に不在となる児童を対象に、安全な場所で健全な育成を図る事業
75	まちの創生	安心して子育てができる支援体制の強化と環境整備	教育課	児童家庭相談事業	妊娠時から子どもの社会的自立に至るまでの包括的・継続的な支援を行う事業
76	まちの創生	安心して子育てができる支援体制の強化と環境整備	教育課	保育園運営事業	園児が安心して過ごせる環境を提供するために、公立4保育園と私立保育園を運営する事業

番号	項目	施策(重点方針)	課	事業名(実施計画)	内容
31	まちの創生	健康で長寿なまちの実現	保健福祉課	福祉医療助成事業	医療費助成を通じて、要支援者及び子育て世代を支援する事業
32	まちの創生	健康で長寿なまちの実現	保健福祉課	こころと身体健康づくり推進事業	こころの健康づくり他、各種医療保険団体などへの負担金補助金をとし、医療保険体制の整備をする等保健衛生全般にかかる事業
39	まちの創生	健康で長寿なまちの実現	保健福祉課	地域福祉推進事業	福祉関係団体等へ補助・助成を行う事で、地域福祉力の向上を図る事業
33	まちの創生	健康で長寿なまちの実現	保健福祉課	成人保健事業	町民自らが、疾病予防・重症化予防に取り組み、健康の維持増進を支援する事業
34	まちの創生	健康で長寿なまちの実現	保健福祉課	がん検診事業	がん予防の啓発・がん検診の実施により、早期発見早期治療につなげる事業
35	まちの創生	健康で長寿なまちの実現	保健福祉課	予防接種事業	予防接種の実施・推進(感染症と予防接種の正しい理解)により、重篤な感染症を予防する事業
36	まちの創生	健康で長寿なまちの実現	保健福祉課	国民健康保険事業(特別会計)	国民健康保険特別会計の運営に関する事業
37	まちの創生	健康で長寿なまちの実現	保健福祉課	介護保険事業(特別会計)	介護保険特別会計の運営に関する事業
38	まちの創生	健康で長寿なまちの実現	保健福祉課	後期高齢者医療事業(特別会計)	後期高齢者医療特別会計の運営に関する事業
40	まちの創生	健康で長寿なまちの実現	保健福祉課	老人福祉対策費	高齢者のいきいきとした生活を支援する事業
41	まちの創生	健康で長寿なまちの実現	保健福祉課	障がい者福祉事業	障がい者の地域生活の支援や障がい者の権利擁護に努める事業
42	まちの創生	健康で長寿なまちの実現	保健福祉課	障がい者支援費事業	障がい福祉サービスの支給を通じ、だれもが住み慣れた地域で暮らせる地域共生社会を目指す事業
1	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	総務課	庁舎整備事業	新庁舎建設及び移転業務に関する事業
2	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	総務課	常備消防事務費	広域連携により、地域の安全を確保する可茂消防事務組合を運営する事業
3	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	総務課	消防団活動費	消防団活動を支援し、消防力の充実を図る事業
4	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	総務課	消防施設整備事業	消防施設や設備の維持・管理していく事業
5	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	総務課	防災行政システム管理事業	町民の防災情報取得に必要な不可欠な防災行政システム(デジタル無線)に関する維持管理経費・整備事業
6	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	総務課	防災・減災対策推進事業	自助・共助力向上への支援と、公助による防災力向上を図る事業
7	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	総務課	交通安全啓発事業	交通安全教育の推進に理解を深め、交通安全意識の高揚や交通マナーの向上を図る事業
8	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	総務課	生活安全推進事業費	町民と行政が連携し、安心して暮らせる犯罪のないまちづくりを推進する事業
10	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	建設環境課	水源の里エネルギー活用推進事業	クリーンエネルギーを活用した低炭素化社会の実現を図る事業
19	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	振興課	公共交通対策事業	安心して暮らしていけるために、公共交通サービスを提供する事業
20	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	振興課	情報発信推進事業	まちの魅力発信と町内情報通信環境の整備を図る事業
29	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	町民課	地籍調査事業	地籍の明確化を図り、土地の保全及びその利用の高度化に資する事業
63	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	建設環境課	道路維持修繕事業	町道の適切で効果的な維持管理事業
64	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	建設環境課	道路新設改良事業	町道の新設、機能向上及び災害防除を実施する事業
65	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	建設環境課	河川砂防事業	町民の生命と財産を守るため、災害を未然に防ぐ河川砂防施設を整備する事業
66	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	建設環境課	交通安全施設整備事業	安心して通行ができるよう交通安全施設を整備する事業
67	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	建設環境課	動物愛護・狂犬病予防事業	狂犬病の発生、犬・猫の被害防止により公衆衛生の向上及び公共の福祉の増進を図る事業
68	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	建設環境課	浄化槽普及事業	水源の里の恵みを守るため、合併処理浄化槽の普及を推進し生活環境の保全を図る事業
69	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	建設環境課	住宅管理事業	人口流出を防止するため、安心して住み続けることのできる住宅を維持する事業
70	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	建設環境課	簡易水道事業(公営企業会計)	簡易水道の運営及び施設管理に関する事業
71	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	建設環境課	環境整備推進事業	環境の保全や啓発活動及び環境教育を行い生活環境の充実を図る事業
72	まちの創生	安心を感じられる物理的な基盤づくり	建設環境課	一般廃棄物処理事業	各種ごみや資源物の収集運搬及びゴミの減量化の推進を行い生活環境の充実を図る事業
77	ひとの創生	公教育(学校教育)の充実	教育課	情報教育推進事業	Society5.0時代を担う子どもたちのICT(情報通信技術)活用のための事業
78	ひとの創生	公教育(学校教育)の充実	教育課	小・中学校一貫教育推進事業	小・中学校一貫教育を推進する事業

番号	項目	施策(重点方針)	課	事業名(実施計画)	内容
79	ひとの創生	公教育(学校教育)の充実	教育課	教職員住宅維持管理事業	教職員住宅の維持管理を行う事業
80	ひとの創生	公教育(学校教育)の充実	教育課	小学校維持管理事業	学校施設の維持管理を行う事業
81	ひとの創生	公教育(学校教育)の充実	教育課	小学校管理事務費	学校運営に必要な事務、保健衛生管理を行う事業
82	ひとの創生	公教育(学校教育)の充実	教育課	小学校就学援助費	要保護及び準要保護児童や特別支援学級の児童を援助するための事業
83	ひとの創生	公教育(学校教育)の充実	教育課	小学校教育振興事務費	身体をつくり、言葉を育て、「志の芽」を培う教育活動を行うための事務に関する事業
84	ひとの創生	公教育(学校教育)の充実	教育課	中学校維持管理事業	学校施設の維持管理を行う事業
85	ひとの創生	公教育(学校教育)の充実	教育課	中学校管理事務費	学校運営に必要な事務、保健衛生管理を行う事業
86	ひとの創生	公教育(学校教育)の充実	教育課	中学校就学援助費	要保護及び準要保護生徒や特別支援学級の生徒を援助するための事業
87	ひとの創生	公教育(学校教育)の充実	教育課	中学校教育振興事務費	身体をつくり、言葉を育て、「志の芽」を培う教育活動を行うための事務に関する事業
88	ひとの創生	公教育(学校教育)の充実	教育課	給食センター運営事業	白川町学校給食センターの運営に関する事業
89	ひとの創生	私教育(探求型)の充実	教育課	公民館等管理運営事業	公民館等社会教育施設の維持管理を行う事業
90	ひとの創生	私教育(探求型)の充実	教育課	読書活動推進事業	町立図書館「美濃白川楽集館」の管理運営と読書活動の推進する事業
91	ひとの創生	私教育(探求型)の充実	教育課	町民会館維持管理事業	町民会館の維持管理を行う事業
92	ひとの創生	私教育(探求型)の充実	教育課	スポーツ振興事業	各種スポーツ団体への支援と誰もがスポーツを楽しめる環境づくりを推進する事業
93	ひとの創生	私教育(探求型)の充実	教育課	体育施設維持管理事業	社会体育施設及び学校開放施設の維持管理を行う事業
94	ひとの創生	私教育(探求型)の充実	教育課	伝統芸能・文化財保護事業	文化財の発掘調査と適正な保護活用の実施を図る事業
95	ひとの創生	私教育(探求型)の充実	教育課	公民館文化活動推進事業	公民館講座・学級等の公民館活動や文化活動を開催し町民の生涯学習環境の向上と文化振興を図る事業
96	ひとの創生	私教育(探求型)の充実	教育課	青少年育成事業	家庭や地域、学校など関係機関が協力し青少年の健全育成を推進する事業
97	ひとの創生	私教育(探求型)の充実	教育課	青雲のつどい実施事業	青雲のつどい、立志式の実施に関する事業
98	ひとの創生	私教育(探求型)の充実	教育課	二十歳のつどい実施事業	二十歳のつどい～大志式～の実施に関する事業
99	ひとの創生	私教育(探求型)の充実	教育課	教育研究推進事業	子どもたちの様々な力を育てると共に先生方の指導力を高めるための教育の研究・実践事業
100	ひとの創生	私教育(探求型)の充実	教育課	社会教育活動事業	社会教育活動の充実と学校と地域の協働活動を推進する事業
9	ひとの創生	地域を支える担い手の育成	総務課	自治協議会等運営費	資源を最大限活用した新たな地域活性化につなげる取り組みを支援する事業
21	ひとの創生	地域を支える担い手の育成	振興課	国際交流事業	異文化交流と多文化共生のまちづくりを推進する事業
22	ひとの創生	地域を支える担い手の育成	振興課	まちおこし推進事業	まちの資源や宝物の磨き上げ及び応援人口の拡大・白川ファンの増加を図る事業
26	ひとの創生	地域を支える担い手の育成	振興課	企画総務事務費	時代に即した地域を創り、安心な暮らしを守るとともに地域間連携を図る事業
24	ひとの創生	移住やUターン促進	振興課	地域おこし協力隊事業	地域おこし協力隊の活動を支援する業務
25	ひとの創生	移住やUターン促進	振興課	移住定住推進事業	移住交流サポートセンターと連携した空家活用及び移住支援・地域内外の交流を図る事業
11	ひとの創生	白川の魅力が体験できる観光振興	振興課	観光振興事業	観光振興に関する事業
12	ひとの創生	白川の魅力が体験できる観光振興	振興課	せせらぎの里管理運営事業	ふるさと体験村の管理運営に関する事業
13	ひとの創生	白川の魅力が体験できる観光振興	振興課	美濃白川クオーレふれあいの里管理運営事業	美濃白川クオーレふれあいの里の管理運営に関する事業
14	ひとの創生	白川の魅力が体験できる観光振興	振興課	道の駅施設管理運営事業	道の駅「美濃白川」の管理運営に関する事業

まちの暮らしやすさ充足度アンケート

- 白川町では、暮らし続けることのできるまちづくりのため、住民の皆様に暮らしやすさの充足度アンケートを実施します。
- まちの暮らしやすさを数値化・可視化することで、効果の高い取り組みや特徴を活かした取り組みを知り、課題となっている事項を特定することができます。
- 調査した内容を受けて、人口減少対策や地方創生に関する戦略を立案することとしています。
- どうかアンケートへのご協力をお願い致します。
 - 世帯の代表の方のほかに、ご家族の方にもご回答いただけると幸いです。
 - ご回答は右の QR コードを読み取り、回答フォームからでも可能です。
 - 回答時間：約5分 対象者：高校生以上の町民の方



該当する□に☑チェックをお願いします

- Q1. あなたの居住地 (☐ 白川地区 ☐ 白川北地区 ☐ 蘇原地区 ☐ 黒川地区 ☐ 佐見地区)
- Q2. あなたの勤務先・通学先 (☐ 白川町 ☐ 美濃加茂市 ☐ 可児市 ☐ 下呂市 ☐ 恵那市 ☐ 中津川市
☐ 川辺町 ☐ 八百津町 ☐ 七宗町 ☐ 東白川村 ☐ 坂祝町 ☐ 富加町 ☐ その他 ☐ 無職)
- Q3. 性別を教えてください (☐ 男 ☐ 女 ☐ 未回答)
- Q4. 年齢を教えてください
 (☐ 10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代 ☐ 80代以上)
- Q5. 現在、あなたはどの程度幸せですか
 「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか
 該当する数字に○を付けてください (10・9・8・7・6・5・4・3・2・1・0)
- Q6. あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか
 「とても満足」を 10 点、「とても不満」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか
 該当する数字に○を付けてください (10・9・8・7・6・5・4・3・2・1・0)
- Q7. あなたの町内(集落)の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか
 「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか
 該当する数字に○を付けてください (10・9・8・7・6・5・4・3・2・1・0)

※該当する数字に○を付けてください

⑤非常に当てはまる・④ある程度当てはまる・③どちらとも言えない・②あまり当てはまらない・①まったく当てはまらない

Q8	自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う	5・4・3・2・1
Q9	暮らしている地域は、医療機関が充実している	5・4・3・2・1
Q10	私の暮らしている地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	5・4・3・2・1
Q11	暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない	5・4・3・2・1
Q12	私の暮らしている地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	5・4・3・2・1
Q13	自宅には、心地のいい居場所がある	5・4・3・2・1
Q14	自宅の近辺では、騒音に悩まされている	5・4・3・2・1
Q15	私の暮らしている地域では、適度な費用で住居を確保できる	5・4・3・2・1
Q16	私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	5・4・3・2・1
Q17	私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	5・4・3・2・1
Q18	私の暮らしている地域では、子育て支援・補助が手厚い	5・4・3・2・1
Q19	私の暮らしている地域では、子どもたちがいきいきと暮らせる	5・4・3・2・1
Q20	私の暮らしている地域では、教育環境(小中高校)が整っている	5・4・3・2・1

Q21	私の暮らしている地域では、通学しやすい場所に学校がある	5・4・3・2・1
Q22	暮らしている地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	5・4・3・2・1
Q23	暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	5・4・3・2・1
Q24	私の暮らしている地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	5・4・3・2・1
Q25	私の暮らしている地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	5・4・3・2・1
Q26	暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい	5・4・3・2・1
Q27	私の暮らしている地域には、まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	5・4・3・2・1
Q28	私の暮らしている地域には、自慢できるまちの景観がある	5・4・3・2・1
Q29	私の暮らしている地域には、自慢できる自然景観がある	5・4・3・2・1
Q30	暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる	5・4・3・2・1
Q31	暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	5・4・3・2・1
Q32	私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取り組みが盛んである	5・4・3・2・1
Q33	私の暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている	5・4・3・2・1
Q34	私の暮らしている地域は、防犯対策（交番街燈・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい	5・4・3・2・1
Q35	私の暮らしている地域では、歩道や信号が整備されていて安心である	5・4・3・2・1
Q36	私は、同じ町内（集落）に住む人たちを信頼している	5・4・3・2・1
Q37	私の暮らしている地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への住民参加が盛んである	5・4・3・2・1
Q38	暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	5・4・3・2・1
Q39	私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする	5・4・3・2・1
Q40	私は、この町内（集落）に対して愛着を持っている	5・4・3・2・1
Q41	この町内（集落）には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	5・4・3・2・1
Q42	私は、見知らぬ他者であっても信頼する	5・4・3・2・1
Q43	私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる	5・4・3・2・1
Q44	私の暮らしている地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	5・4・3・2・1
Q45	私の暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	5・4・3・2・1
Q46	自分のことを好ましく感じる	5・4・3・2・1
Q47	私は、身体的に健康な状態である	5・4・3・2・1
Q48	私は、精神的に健康な状態である	5・4・3・2・1
Q49	暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	5・4・3・2・1
Q50	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	5・4・3・2・1
Q51	私の暮らしている地域では、学びたいことを学べる機会がある	5・4・3・2・1
Q52	私の暮らしている地域では、やりたい仕事を見つけやすい	5・4・3・2・1
Q53	私の暮らしている地域では、適切な収入を得るための機会がある	5・4・3・2・1
Q54	暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	5・4・3・2・1

ご回答ありがとうございました。いただいた意見を参考にさせていただき、より魅力的なまちづくりを目指していきます。

○問合せ：役場企画課企画係（72-1311 内線 231）

○白川町総合計画審議会条例

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、白川町総合計画審議会(以下「審議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 審議会は、町長の諮問に応じ、次に掲げる事項を調査及び審議する。

- (1) 白川町総合計画(以下「総合計画」という。)の策定及び成果の検証に関すること。
- (2) まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)第10条の規定による白川町まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、「総合戦略」という。)に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、総合計画及び総合戦略に関し、町長が必要と認める事項

(組織)

第3条 審議会は、委員20人以内で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、町長が任命する。

- (1) 町議会議員
- (2) 産業及び、経済団体等の役職員
- (3) 公共的団体等の役職員
- (4) 学識経験者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、前条1号から3号までに掲げる職をもつて任命された委員は、その職の在任期間とし、委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長各1名を置き、委員の互選によつて定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、または会長が欠けたときは、その職務を代行する。

(会議)

第6条 審議会は、会長が招集する。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(部会)

第7条 会長は、専門的事項を調査審議するため、必要に応じ部会を置くことができる。

(庶務)

第8条 審議会の庶務は、企画課において行う。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、町長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(白川町総合開発審議会条例の廃止)

2 白川町総合開発審議会条例(昭和39年白川町条例第26号)は、廃止する。

附 則(平成11年3月12日条例第7号)

この条例は、平成11年4月1日から施行する。

附 則(平成17年3月11日条例第15号)

この条例は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月5日条例第10号)抄

(施行日)

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(令和3年3月3日条例第2号)

この条例は、令和3年4月1日から施行する。

白川町総合計画審議会委員名簿

	区分	役職等	氏名	備考
1	(1)町議会議員	議長	藤井 宏之	副会長
2	(1)町議会議員	総務常任副委員長	佐伯 好典	
3	(2)産業及び、経済団体等の役職員	白川町森林組合 組合長	加藤 邦之	
4	(2)産業及び、経済団体等の役職員	白川町農業委員会 会長	榊間 博幸	
5	(2)産業及び、経済団体等の役職員	白川町商工会 会長	長尾 達美	
6	(2)産業及び、経済団体等の役職員	白川町観光協会 会長	細江 辰男	
7	(2)産業及び、経済団体等の役職員	白川町商工会 理事 (有限会社 尾古志製作所)	後藤 茂巳	
8	(2)産業及び、経済団体等の役職員	集落支援員	塩月 祥子	
9	(3)公共的団体等の役職員	白川町消防団 団長	山中 剛彦	
10	(3)公共的団体等の役職員	自治協議会 会長	今井 清美	
11	(3)公共的団体等の役職員	校長会会長(佐見小学校長)	村上 欣子	
12	(3)公共的団体等の役職員	青少年育成町民会議 会長	小栗 敏弘	
13	(3)公共的団体等の役職員	子育て指導員	安江 万美子	
14	(3)公共的団体等の役職員	清流会 理事長	浅井 長可	
15	(3)公共的団体等の役職員	社会福祉協議会 事務局長	福田 喜美子	
16	(3)公共的団体等の役職員	白川町シニアクラブ連合会 会長	鈴村 逸策	
17	(4)学識経験者	岐阜協立大学 教授	竹内 治彦	会長